

青森
の
正直

令和4年度版

あおもりの 野菜つこ



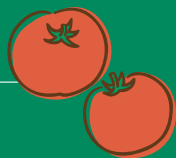
あおもりの野菜は、
豊かな自然と
きまじめな生産者が育てた
安全・安心な野菜です。



青森県では、夏季冷涼な気候、緑豊かな森林、三方を囲む海など、恵まれた地域特性を生かし、未来につながる「水」「土」「人」の3つの基盤づくりを進めながら、「農林水産業の収益力強化」「共助・共存の農山漁村づくり」を推進し、農林水産業の持続的成長と共生社会の実現を目指しています。

そんな中で生産されるあおもりの野菜は、自然豊かな環境のもとで、生産者が「こだわり」と「正直にまじめに」育てた自信をもっておすすめできる「健康野菜」です。

目次



青森県の主要野菜

ながいも	2	ピーマン	26
にんにく	4	いちご	28
ごぼう	6	えだまめ	30
だいこん	8	さやいんげん	32
にんじん	10	ねぎ	34
ばれいしょ	12	キャベツ	36
こかぶ	14	レタス	38
トマト	16	ほうれんそう	40
ミニトマト	18	ブロッコリー	42
メロン	20	スイートコーン	44
すいか	22	アスパラガス	46
きゅうり	24		
青森の伝統的・特徴的野菜	48		
青森の「冬の野菜」たち	50		
青森県産野菜の生産と流通	52		
付 表	55		
日本一健康な土づくり推進運動	60		
旬のカレンダー	62		

ながいも



**作付面積日本一、出荷量全国2位
青森県産野菜のエース!!**

青森県のがいもは、作付面積が日本一、出荷量が全国2位で、国内出荷量の約4割を占めています。

品種は、在来種「ガンクミジカ」に由来する首が短く肉付きの良い系統が普及しており、色白で粘りが強くアクが少ないのが特徴で、品質が良いながいもとして全国の市場から高い評価を得ています。

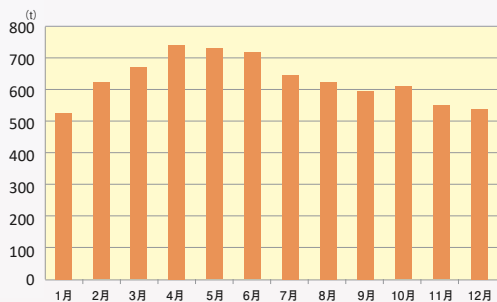
5月に植付けが始まり、収穫は11月から12月（秋掘り）と越冬後の3月から4月（春掘り）の年2回行われます。

各産地には、低温貯蔵庫が整備され、年間を通じて全国に出荷されているほか、アメリカなど海外にも輸出されています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	69,300	2,000
2	青森	51,700	2,230
3	長野	4,940	271
4	岩手	2,790	177
5	茨城	1,790	93
	全国	135,800	5,170

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



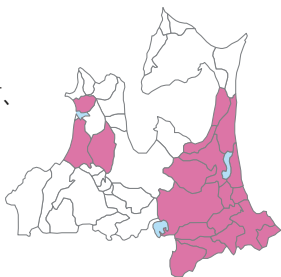
項目/月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業	露地普通	越冬		春掘り 収穫貯蔵		植付け							
		秋掘り 収穫貯蔵											
出荷時期 (旬の時期)		出荷時期											

主な産地

三八地域 八戸市、三戸町、五戸町、田子町、階上町、新郷村、南部町

西北地域 五所川原市、つがる市

上北地域 十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町



産地レポート

JA十和田おいらせ野菜振興会ながいも専門部会

産地の情報

JA十和田おいらせ野菜振興会ながいも専門部会は、部会員が435名、作付面積が約280haで県内トップクラスの生産量を誇っています。

JAでは、土壌診断に基づく土づくりを基本に、糖度、硝酸値の独自基準に適合したものを「十和田おいらせミネラル野菜(TOM-VEGE(トムベジ))」としてブランド化しています。

また、若手生産者を対象とした「ながいも育成塾」を開講し、篤農家の肥培管理や種いもの選別技術などの栽培技術の習得に努めています。

ながいも部会長であり、「ながいも育成塾」の講師も務める寺澤和夫さんは、「若手達と農業の未来を考えるのが一番楽しい。長年の経験で得た情報を、多くの若い担い手に伝えていきたい。若手達には、ながいもに興味を持って品評会など部会の行事に積極的に参加してほしい。」と話していました。

品質・収量向上と消費者交流に積極的な取組

高品質なながいもを安定生産するための基本は優良な種苗を使うことです。JAでは、採種生産者へむかごの生産を委託して、厳正な栽培管理の下で、JAと部会によるウイルス病のチェックを行い、部会員へ供給しています。

また、ながいもの掘取り体験から収穫の苦勞と喜びを味わってもらおうと、春に「ながいも早掘りNo.1決定戦」を開催しており、幅広い年代の生産者と消費者が大勢参加して交流しています。

※むかご：ながいものわき芽が養分を蓄え肥大化したもの。種芋のもととなる。



収穫作業



寺澤和夫部会長



ながいも育成塾の様子



十和田やさいセンター選果場の様子

にんにく



国産の7割を占める日本一の産地！
大きさ、雪のような白さ、
品質の良さが自慢！

青森県のにんにくは、日本一の生産量を誇り、国内出荷量の約7割を占めています。栽培品種は、本県の気候に適した「福地ホワイト」が使用されており、その栽培は昭和37年から田子町で本格的に始まり、その後、水田転換政策により昭和40年代後半から全县に拡大しました。

現在は、民間会社が「福地ホワイト」から選抜した「白玉王」が主流となっています。

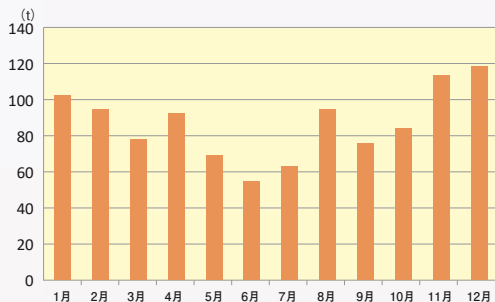
令和4年には、地方独立行政法人青森県産業技術センター野菜研究所が「福地ホワイト」から選抜した新しい品種を「あおもりふくゆき青森福雪」と命名しました。

6月から7月に収穫されたにんにくは、乾燥後に冷蔵庫で保管され、1年を通じて安定して出荷されています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	青森	9,610	1,430
2	北海道	726	154
3	香川	591	99
4	鹿児島	240	45
5	岩手	223	57
	全国	14,000	2,520

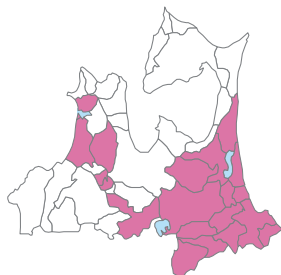
県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



項目/月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業	露地マルチ	越冬					収穫	乾燥		植付け			越冬
	出荷時期 (旬の時期)	出荷時期											

主な産地

- 中南地域 平川市、藤崎町
- 三八地域 八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村
- 西北地域 五所川原市、つがる市、板柳町
- 上北地域 十和田市、三沢市、七戸町、六戸町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町



産地レポート

J A ゆうき青森野菜振興会にんにく部会

産地の情報

J A ゆうき青森野菜振興会にんにく部会は、令和4年度で部会設立50周年を迎え、部会員は270名、作付面積が200haと県内有数の産地として、古くから生産しています。部会員は、土壌診断結果に基づいた土づくりに取り組んでいるほか、毎月の農協からの栽培情報に基づいた栽培管理を行い、安心・安全なおいしいにんにくづくりに励んでいます。

にんにくは、9月下旬～10月上旬に種（りん片）を植付け、翌年6月下旬～7月上旬に収穫します。極寒の中でじっくり育つため、辛みが少なく甘みのある味わいとなっています。

独自ブランド「MILD（マイルド）にんにく」

出荷されたにんにくは、A1搭載の選果機で大きさ、品質などを1球ずつカメラ撮影により選別され、特殊な製法により風味・栄養等はそのまま、食後の匂いを気にならない程度まで抑えた「MILDにんにく」として全国各地に出荷されています。

にんにくの加工品にも力を入れています！

J A ゆうき青森では、生のにんにくを1か月間かけて熟成した「新黒にんにく愛ちゃん」やマイルドにんにくを乾燥させた「マイルドにんにくスライス」など、加工にも積極的に取り組んでおり、好評を得ています。



A1搭載の選果機による選果の様子



部会役員の枋木光明さん

家では、「にんにくみそ」や「黒にんにく」をつくって食べています。

ごぼう



出荷量日本一！
健康志向の高まりでますます注目！

青森県のごぼうは、日本一の出荷量を誇り、国内出荷量の約4割を占めています。本県産のごぼうは、香りや風味が良く、繊維質が邪魔にならない程度に身が締まり、シャキシャキとした食感が特徴で、高品質なごぼうとして市場から評価を得ています。

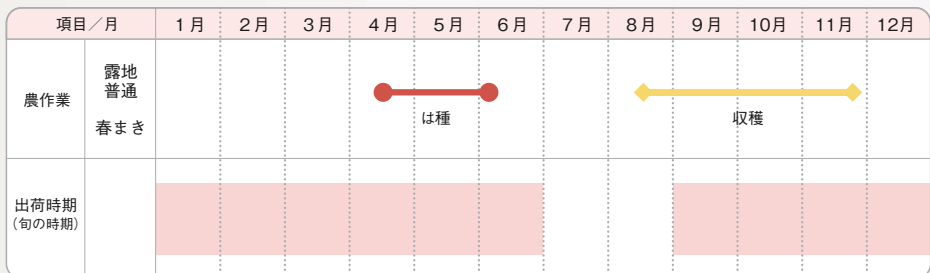
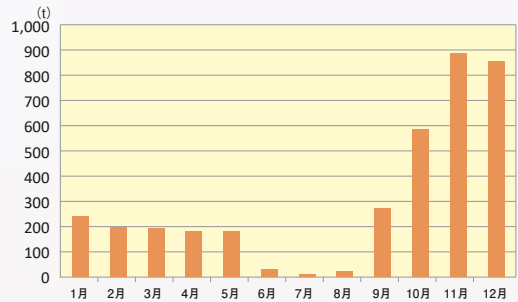
主要な産地は、太平洋側の夏に「ヤマセ」とよばれる冷たい風が吹く上北地域に集中しており、同じ根菜類のながいもの輪作作物として導入が進んでいます。また、健康野菜として注目されていることもあり、現在では日本一の作付面積を維持しています。

4月～6月に種をまき、9月～11月に収穫されたごぼうは冷蔵庫で保管され、ほぼ一年中、安定的に供給されています。

全国の生産状況 (R3)

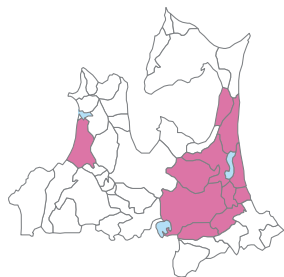
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	青森	48,300	2,370
2	茨城	12,600	791
3	北海道	11,600	522
4	宮崎	8,970	557
5	群馬	6,730	401
	全国	116,700	7,410

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



主な産地

- 三八地域 五戸町、新郷村
- 上北地域 十和田市、三沢市、七戸町、六戸町、
横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町
- 西北地域 つがる市



産地レポート

J A おいらせやさい推進委員会ごぼう部会

産地の情報

J A おいらせのごぼうは、主力品目であるながいもやんにくの輪作作物として導入され、収穫作業の機械化や長期安定出荷が可能となる貯蔵施設の整備により県内トップクラスの作付面積を維持し、令和4年度の販売額は約11億円となっています。

部会では、消費者や実需者との信頼を築くため、平成23年からJ A版のG A P手法を取り入れ、生産から出荷まで安全・安心の確保に努めています。

日本一の産地としての誇りと責任を胸に、食感と香りと風味が自慢のごぼうづくりに取り組んでいます。



収穫作業の様子

部会の取組

部会では有利販売のための規格の選別と異物混入防止の徹底に力を入れています。J Aの出荷規格は18種類もあり、スーパーなどへは2 Lや1、加工業者へは4 Lや規格外品など、要望に応じた出荷を実践しています。

産地を良くすることを常に考え、みんなで良いものを作ることで産地全体の更なる評価向上を目指しています。



収穫直後のごぼう

部会長の思い「消費者においしいごぼうを届けたい」

「品質は生産者や農協のこれまでの努力により、十分良いものが作られている。自分はそのつなぎ役でしかない。これからも良いものをみんなで作っていき、消費者においしいものを届けたい」と語るのは、ごぼう部会長（三沢地区）の小湊倫明さん。小湊さんは、部会のごぼう生産をけん引しつつ、地元高校の文化祭でごぼうを安値で販売するなど地産地消にも力を入れています。



小湊倫明部会長

だいこん



春から秋まで本県の気候と地形を生かして生産！出荷量は全国3位！

青森県のだいこんは、県内で最も作付面積と出荷量が多い野菜です。

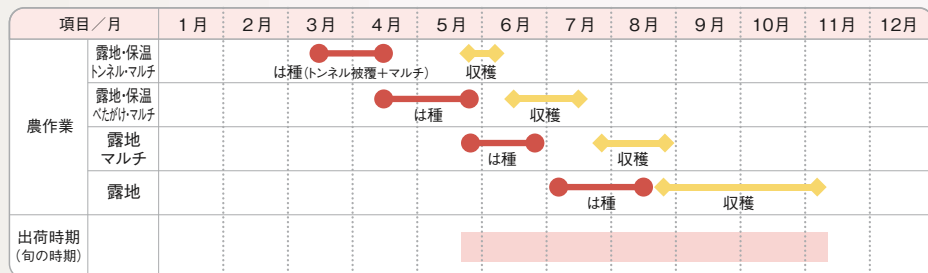
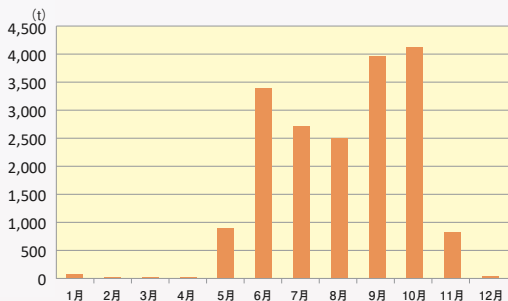
春は低温による食用部分の生育停滞を防ぐトンネル栽培、夏は涼しい高冷地での栽培、秋は露地栽培など、栽培する時期や場所によって品種や作型を変えて品質の良いだいこんの生産を行っています。

県内の主な産地は、上北地域（三沢市、東北町、六ヶ所村、おいらせ町）、中南地域（黒石市、平川市）、三八地域（五戸町、新郷村）、下北地域（むつ市、東通村）等で、県内各地で産地が形成されており、主な出荷時期は5月から11月です。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	136,900	2,570
2	北海道	134,800	2,980
3	青森	104,200	2,770
4	鹿児島	82,900	1,970
5	神奈川	67,800	1,070
	全国	1,033,000	29,200

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)

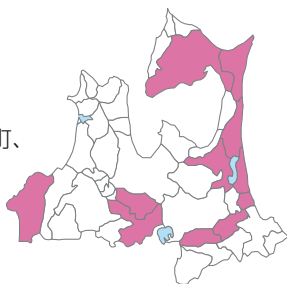


主な産地

春だいこん 三沢市、東北町、六ヶ所村、おいらせ町

夏だいこん 黒石市、平川市、五戸町、新郷村、深浦町、
三沢市、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、
むつ市、東通村

秋冬だいこん 深浦町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町



産地レポート

J A十和田おいらせ下田支店

産地の情報

J A十和田おいらせのだいこんは、おいらせ町を中心に産地化しており、県内一の大産地を形成しています。特においらせ町のだいこんは、春夏～秋まで生産出荷が行われており、下田支店管内のだいこんの作付面積は71ha、生産者は30名となっています。



出荷に向けた取組

下田支店管内では収穫の機械化が進んでおり、ほとんどの生産者が収穫機を導入しています。手掘り収穫より早く、かつ省力化できるため、今では生産において欠かせない機械となっています。



また、J A洗浄選果施設で共選出荷を行っており、高品質なだいこんが消費者へ届けられるように、人の目で厳しくチェックし、1本、1本に愛情を込めて丁寧に出荷しています。



J A 洗浄選果施設

部会一体となった安定出荷

「病害虫が発生しやすい夏場のだいこんの生産を盛り上げるため、部会で肥料や農薬の試験を行い、安定出荷を目指している」と語ってくれたのは、J A十和田おいらせ野菜振興会だいこん専門部会長の笹森毅さん。難しい夏だいこんの生産を技術力で克服し、産地としてのPRにつなげていきたいと笑顔で力強くお話してくださいました。



笹森毅部会長

にんじん



全国4位の出荷量！
7月が出荷のピーク！

青森県のにんじんは、柔らかくて甘みがあり、保存性の高さにも定評があります。

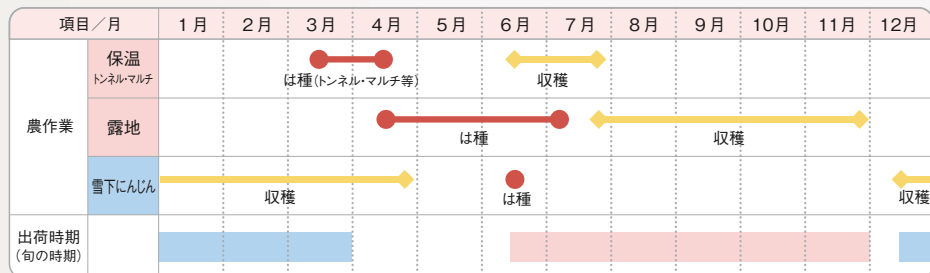
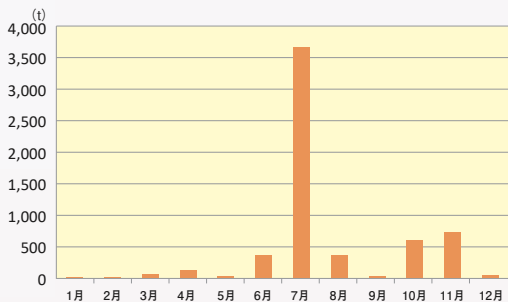
県内の春夏にんじんの主な産地は上北地域（三沢市、六戸町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町）で、関東の出荷が終わり、北海道の出荷が本格化する前の7月が出荷のピークとなっています。

また、雪の下から掘り出すことで、冬の寒さにより甘みや栄養価が増した雪下にんじんが、深浦町を中心に栽培されています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	188,000	4,540
2	千葉	104,900	2,900
3	徳島	45,700	937
4	青森	39,900	1,260
5	長崎	30,400	816
	全国	572,400	16,900

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)

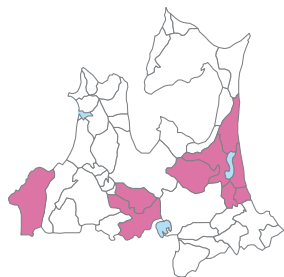


主な産地

春夏にんじん 三沢市、六戸町、東北町、六ヶ所村、
おいらせ町

秋にんじん 黒石市、平川市、七戸町、東北町、
六ヶ所村、おいらせ町

冬にんじん 深浦町、おいらせ町



産地レポート

J A おいらせやさい推進委員会にんじん部会

産地の情報

J A おいらせ管内では、根菜類を中心とした野菜生産が盛んで、にんじんは、ながいも・ごぼう・にんにくに次ぐ第4の品目として年々生産量が増加しています。令和4年度の出荷量は5,193トン、販売額は約7.7億円となっています。



収穫前のにんじんほ場

産地を支える若手生産者の取組

収穫作業は、若手農家の有志15名とJ Aにより構成される「人参オペレーター協議会」が、請け負っています。

収穫作業の受託は、労力の軽減を目的に昭和50年から続けている取組で、出荷期間を6月下旬～7月末に集約した安定出荷が可能となりました。更に、共同選別によって品質を統一し、全国的な春夏にんじんの産地となっています。



オペレーターによる収穫作業

部会長の意気込み

「今後は、生産者の負担軽減に配慮しつつ、面積を維持して、産地リレーを維持することが大事」と語るののは、にんじん部会長（三沢地区）の田中継美さん。

部会では、品種選定に力を入れており、発芽率が高いだけでなく、調理しやすくおいしい品種という消費者ニーズも聞きながら、選定しているとのこと。また、「今後は加工や業務需要についても検討していきたい」と意気込みを語っています。



田中継美部会長

ばれいしょ



北海道・九州の2大産地の端境期を
ねらった中堅産地、7月～9月に出荷！

ばれいしょは、全国的には、秋から春までは北海道、春には九州地方からの出荷が多く、青森県の主な出荷時期はこれらの産地の端境期となる7月から9月です。

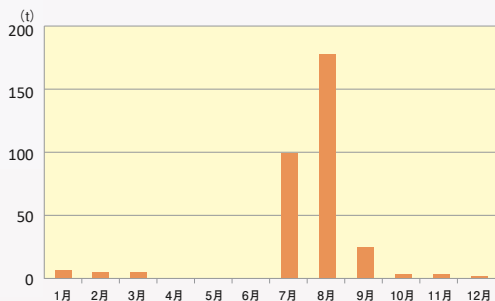
また、県内の主な産地は、横浜町、東北町、三沢市、六ヶ所村などで、太平洋側で栽培が盛んです。

品種は、煮崩れの少ないメークインが多く作付けされています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	1,502,000	47,100
2	鹿児島	84,500	4,510
3	長崎	71,400	3,190
4	茨城	42,600	1,640
5	千葉	24,900	1,140
7	青森	11,700	677
	全国	1,823,000	70,900

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)

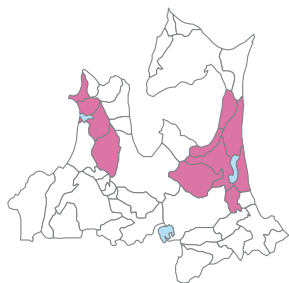


項目/月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業	露地				●● 催芽 植付け			←→ 収穫					
	出荷時期 (旬の時期)							■	■	■			

主な産地

西北地域 五所川原市、中泊町

上北地域 三沢市、野辺地町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村



産地レポート

株式会社黄金崎農場（岩木山農場）

産地の情報

ばれいしょは、冷涼な気候を好み、年による豊凶の差が小さく、栽培期間が3～4か月と短期間で、後作の導入ができる経営に有利な品目です。(株)黄金崎農場では、昭和52年から加工用ばれいしょの作付けを開始し、現在は作付面積約90haの広大な土地で、多種多様な種いも40品種を取り扱う県内トップの株式会社です。

全国各地に出荷している種いも

(株)黄金崎農場では、九州地方を中心に、大手製菓会社や種いも販売会社等を通じて全国に出荷しています。

収穫した種いもは、腐敗や傷等がないかすべて人の目で厳重にチェックしており、常に取引先に高品質な種いもを届けることができるよう取り組んでいます。



珍しい色の品種も生産

他の産地では作られていない、珍しい品種の種いもも生産しています。(株)黄金崎農場佐々木君夫代表取締役会長が見せてくれたのは、「ノーザンルビー」という断面がピンクの品種。「味だけでなく、目からもばれいしょを堪能して欲しい」と、他にも「ノーブルシャドー」や「シャイニールビー」など、色付きの品種を出荷しています。

見た目も素敵なばれいしょを是非見つけてみてください。



株黄金崎農場佐々木君夫代表取締役会長



ノーザンルビー

こかぶ



太平洋からの冷たい風が吹き付ける
ヤマセ地帯は、夏場のこかぶ栽培に最適！
出荷量は全国3位！

かぶには聖護院かぶ、天王寺かぶなどの大型のかぶ、日野菜かぶ、赤かぶなど主に漬物に用いるかぶなど、大きさや用途によって多くの種類がある中で、青森県の主力はこかぶです。

青森県のこかぶは、夏場でも涼しい気候の中で生産されるため、皮が薄く色白で、鮮度が良いと好評を得ています。

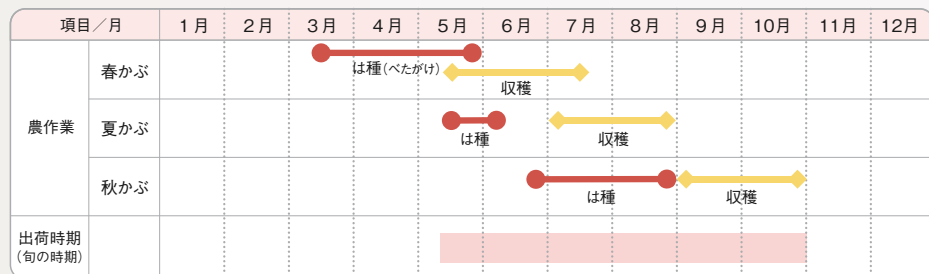
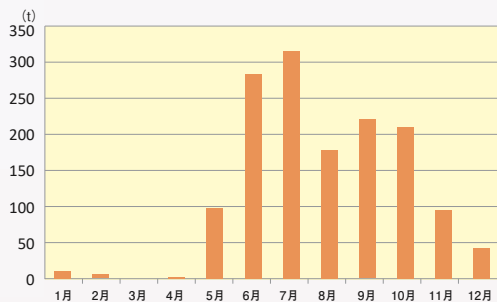
皮をむいて生で食べると、梨のようなみずみずしさと食感で、ほのかな甘みを感じられます。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	27,900	882
2	埼玉	13,400	400
3	青森	5,600	173
4	京都	4,590	142
5	滋賀	3,720	172
	全国	90,700	4,010

※「かぶ」のデータ

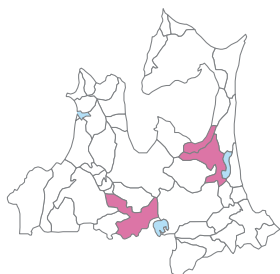
県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



主な産地

中南地域 平川市

上北地域 野辺地町、東北町



産地レポート

J A ゆうき青森野菜振興会こかぶ部会

産地の情報

野辺地町は、夏季に低温・日照不足になりやすい上、耕地面積も少ないことから、農業振興のためには収益性が高く、女性や高齢者が生産に参画しやすい軽量野菜への取組が必要でした。

そこで、地域に合う野菜品目を模索し、昭和58年からこかぶ栽培の取組が始まりました。



生産・栽培上の特色

商品力強化のため、周辺地域に多い畜産農家が生産した完熟堆肥の投入や、緑肥による健康な土づくりと、被覆資材の活用による農薬節減を基本とした栽培基準を作成し、安全・安心な葉つきこかぶの生産を進めています。



産地化の取組・販売戦略

平成19年11月に、地域ブランド化に向けて「偏東風と大地の恵み野辺地葉つきこかぶ」を商標登録し、平成24年8月には「野辺地葉つきこかぶ」の名称で地域団体商標に登録されました。平成29年には鮮度保持の向上に向け、新しい出荷施設が完成し、更なるブランド力の強化に取り組んでいます。



田村敬一部会長

「まず一度、生で食べてほしい」と語るのは、J A ゆうき青森野菜振興会こかぶ部会長の田村敬一さん。「柔らかく、甘くて、みずみずしい」野辺地葉つきこかぶを味わうには、生食が一番おすすめだそうです。また、YouTubeでの情報発信やネット販売にも取り組んでいるので、一度チェックしてみてください。



ト マ ト



東京都中央卸売市場の8月入荷の トマトは、青森県産がシェア3位！

青森県のトマト生産は、昭和51年から本格的な栽培が始まり、令和3年度の出荷量は全国11位となっています。

夏場の生産が中心で、特に東京都中央卸売市場への出荷が多く、8月は青森県産のシェアが3位です。昼夜の気温差が大きい青森県で生産されるトマトは、味が良く、日持ちの良さにも定評があります。

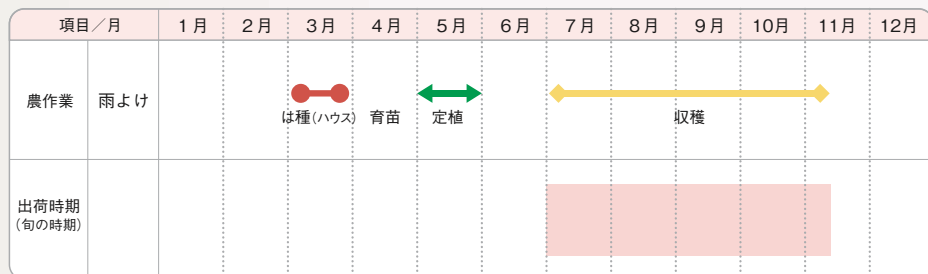
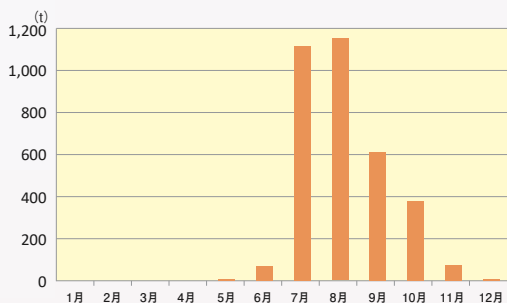
県内各地に産地が形成されており、東青地域（青森市、蓬田村）、中南地域（黒石市、弘前市、平川市）、三八地域（三戸町、南部町）、西北地域（五所川原市、つがる市）、上北地域（七戸町）等が主な産地となっています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	128,100	1,270
2	北海道	60,300	834
3	愛知	46,600	494
4	茨城	45,100	894
5	栃木	29,900	300
11	青森	17,000	377
	全国	659,900	11,400

※ミニトマト及び加工用トマトを含む

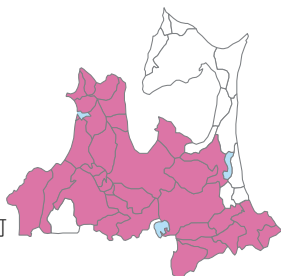
県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋トマト 青森市、平内町、今別町、蓬田村、外ヶ浜町、弘前市、黒石市、平川市、藤崎町、大鱈町、田舎館村、八戸市、三戸町、五戸町、子子町、南部町、階上町、新郷村、五所川原市、中泊町、板柳町、鶴田町、つがる市、鯉ヶ沢町、深浦町、十和田市、七戸町、東北町

冬春トマト 三戸町、南部町



産地レポート

J A つがるにしきた津軽北部統括支店

産地の情報

津軽北部地域は、五所川原市の旧金木町、旧市浦村地区と中泊町の旧中里町地区の3地区で構成され、津軽平野の岩木川右岸に位置し、昭和56年から夏秋トマトを導入し、振興してきました。

夏でも比較的涼しく、寒暖差があるため、甘くて味の良いトマトが生産されています。管内で生産されたトマトは主に関東市場へ出荷しています。



選別基準の統一と販売の一元化

令和3年までは、3地区の選果場でそれぞれ選果や出荷が行われていましたが、令和4年から選果場を1か所に集約し、選別基準の統一と販売の一元化により、ロットの確保と有利販売につなげています。



販売促進活動

地域ぐるみでのトマト生産

「昭和63年からトマトを始めて、研修会、勉強会、交流会に夫婦で参加している人も多かったが、年々活動が衰退してきているのを感じた」と語ってくださったのは、部会長の佐藤イネ子さん。そんな時、部会長をやってもらえないかと声がかかり、この地域でトマトを作っている誇りと、一緒に頑張ってきた部会員のために引き受けることにしました。

「待っているは何もできない。会員がお互い声をかけあって、いろんな意見を出し合いながら、もっと良いトマトを生産する。そして、トマトを作って良かったと思ってもらえるようにしたい。」と意気込みを語っていただきました。「今後、機会があれば、販売促進活動を再開し、J A つがるにしきたのトマトをもっとPRしたい。」とのことでした。



佐藤イネ子部会長

ミニトマト



人気上昇中！
東京都中央卸売市場の8月入荷量は全国2位！

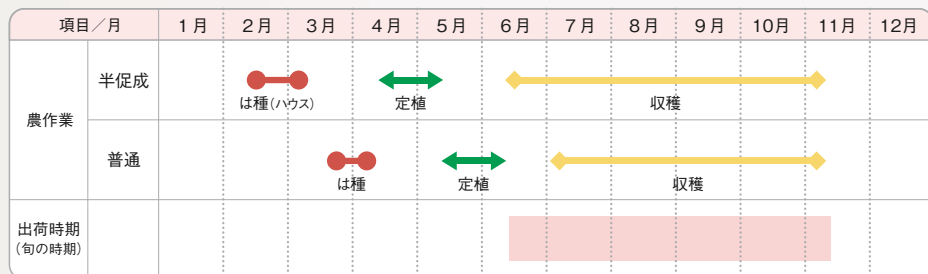
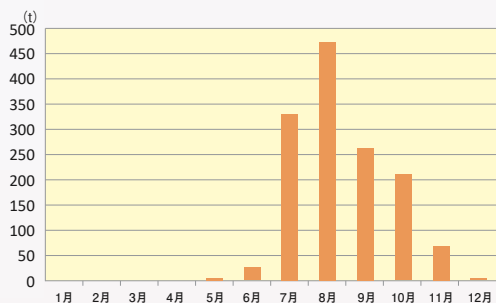
ミニトマトは、サラダの付け合わせなどに多く利用され、消費量が安定しており、更に近年の高値販売や、高齢化により大玉トマトからの切替が進んでいることから、全国的に作付面積が微増しています。

県内では、転作田への作付けや技術面の取り組みやすさから生産が拡大しており、中南地域（弘前市、平川市、大鰐町、田舎館村）、西北地域（五所川原市、つがる市）、三八地域（八戸市）、東青地域（青森市、蓬田村）が主な産地となっています。

全国の生産状況 (R3)

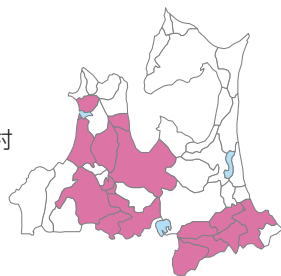
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	39,200	493
2	愛知	17,200	138
3	北海道	14,800	297
4	宮崎	8,440	112
5	茨城	7,270	220
12	青森	3,340	69
	全国	150,900	2,680

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



主な産地

- 東青地域 青森市、蓬田村
- 中南地域 弘前市、平川市、藤崎町、大鱈町、田舎館村
- 三八地域 八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、新郷村
- 西北地域 五所川原市、つがる市



産地レポート

J A津軽みらい

産地の情報

中南地域全体で作付けされていますが、特にJ A津軽みらい管内では、平川市を中心に、部会員165名、栽培面積18.5haとなっており、主に関東、東海地方に出荷しています。

ミニトマトは安定した需要があり、食味のよい赤系品種のサンチェリーピュアを主体に作付けしています。



選果、パック詰め作業

産地はまだまだ拡大中

ミニトマトは、技術的に比較的簡単で軽量なことから、新たに農業に取り組む方や年配の生産者でも作りやすく導入しやすい作物です。また、ミニトマトを経営の柱として選択する新規生産者や、りんごや水稲との複合品目として導入する生産者が増加し、毎年、生産が拡大しています。

産地の維持に向けて

部会では、県やJ A等の指導機関だけでなく、ベテラン生産者も、新たにミニトマトを作る生産者や若手生産者に対して、栽培技術や経営についての相談役を担っています。

また、生産者同士の情報交換により、更なる技術の向上を図っています。

津軽みらい農協園芸生産出荷協議会会長であり、トマト部会副部会長の須々田憲一さんは、「『J A津軽みらいのミニトマト』というブランドが浸透してきているので、一人一人が出荷基準をしっかりと守るよう、部会員に

お願いしている。今後も、市場からの要望に応え、良品質・高収量生産を目指し、部会員みんなできより一層頑張っていきたい」と話してくださいました。



須々田副会長夫妻

メロン



メロンの出荷量は全国6位！
 値頃感と高い糖度が
 セールスポイント！

青森県のメロンは、ほとんどが雨除けトンネルで栽培され、ネット系メロンを中心に、白皮品種、黄皮系品種を組み合わせることでバランスのとれた栽培を行っています。

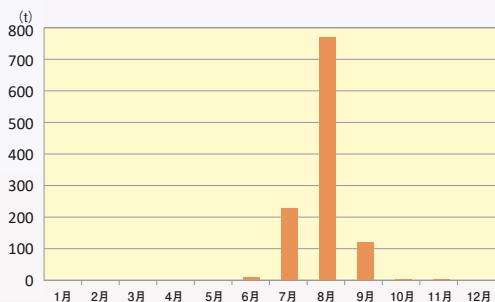
出荷量は全国6位で、出荷先は県内のほか、東海・近畿地方が多く、出荷時期は8月がピークとなっています。

青森県の主力品種である「タカミ」は、果肉が緑色で厚く、肉質はやや硬めで日持ち性が良く、糖度が15度前後と極めて高いという特性があります。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	茨城	34,200	1,210
2	熊本	24,000	849
3	北海道	18,900	925
4	山形	9,090	495
5	愛知	9,040	371
6	青森	8,390	449
	全国	136,700	6,090

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)

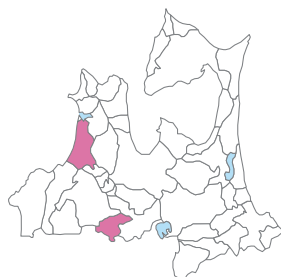


項目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業	露地トンネルI型		は種(ハウス)	定植				収穫				
	露地トンネルII・III型			は種(ハウス)	定植			収穫				
出荷時期(旬の時期)												

主な産地

中南地域 大鰐町

西北地域 つがる市



産地レポート つがる市

産地の情報

本県の作付面積の大部分を占めるつがる市の西側に広がる屏風山砂丘地域は、水はけが良く、昼夜の温度較差が大きいことから、メロン栽培に最適な環境条件を有し、全国有数のメロン産地となっています。

また、つがる市内で生産されたメロンなどの8品目を対象に、「つがるブランド」に認定しており、各地へ出荷しています。

優れた栽培技術

メロンは手間暇をかけないと品質の良いものがないことから、生産者は惜しみない努力を続けており、40年以上にわたり培われた栽培技術は、地域にとって大きな財産となっています。

JAごしょつがる木造総合支店における共同選別・出荷

JAごしょつがるでは、糖度センサーや、画像処理装置を組み合わせた複合型光センサーを導入し、糖度表示等による付加価値の高いプレミアムメロンを出荷しています。



若手生産者の樋口成紀さん



通年栽培に向けた新たな挑戦

メロンは栽培期間が春から夏に限定される品目ですが、つがるブランドの知名度向上や新規就農者の確保等を目的として、令和2年度から「つがる市メロン水耕栽培技術研究会」を組織し、「町田式水耕栽培システム」を利用したメロン通年栽培の実証事業に取り組んでいます。

すいか



屏風山地域が主産地！
昼夜の気温差が大きく、
水はけが良いため糖度抜群！

青森県の主な産地は、鱒ヶ沢町からつがる市に広がる日本海岸の屏風山（びょうぶさん）地域であり、県内の8割以上が生産されています。

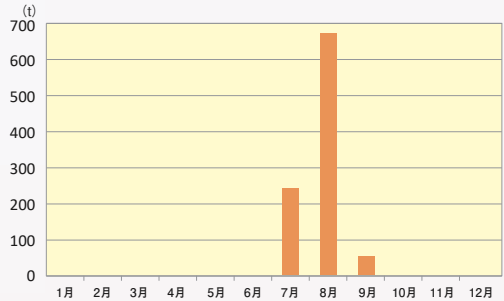
8月を中心に、関東、東海、近畿地方向けに出荷されています。

品種は羅王系、縞王系を主体に、「ピノガール」、「ひとりじめ」などの小玉すいか、枕形の「紅まくら」などが導入され、いずれも果肉の発育が良く、肉質がきめ細かくしまっており、甘さ抜群で日持ちも優れています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	46,400	1,280
2	千葉	34,600	974
3	山形	28,100	785
4	新潟	15,600	505
5	鳥取	15,500	368
14	青森	6,310	249
	全国	275,800	9,200

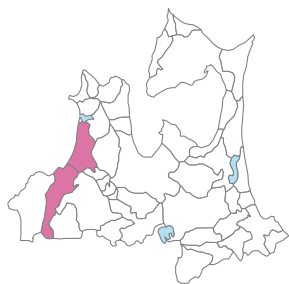
県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



項目/月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業	ハウス		は種(ハウス)	定植				収穫					
	露地トンネル		は種(ハウス)	定植				収穫					
出荷時期 (旬の時期)													

主な産地

西北地域 つがる市、鱒ヶ沢町



産地レポート

屏風山蔬菜生産組合

産地の情報

屏風山地域で本格的なすいか栽培が始まったのは、昭和30年代半ばといわれています。地域特有の昼夜の温度較差が大きい気候と水はけの良い土地が、糖度を格段に高め、甘くてジューシーだと評判になりました。

昭和40年には、安定した品質・生産・出荷量を確認するため、「屏風山蔬菜生産組合」が組織されました。



ブランドすいか「屏風山西瓜」

昭和44年に「屏風山西瓜」で商標登録を行い、ブランド化に努めてきました。主力品種は「羅皇（らおう）」、「紅まくら」、「ピノガール」で、出荷時期は7月中旬～8月末となっています。名古屋、東京、川崎などの市場に出荷され、夏場の産地として市場から高い評価を得ています。



夏場の産地として市場から高い評価

屏風山蔬菜生産組合では、味を凝縮させるため1株に1～2個だけ着果させるなど、おいしいすいかの生産にこだわっています。また、組合員で集まる機会を多く設け、新品種や薬剤の検討を行うなど、組合員みんなで産地として盛り上げています。更に、組合員全員が積極的に土壌診断を実施し、エコファーマーを取得するなど、安全・安心な農業を目指しています。



横山治彦組合長

きゅうり



三八地域に生産が集中！
出荷のピークは7～9月！

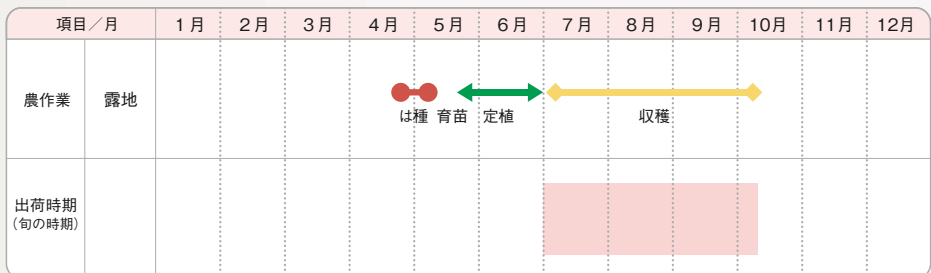
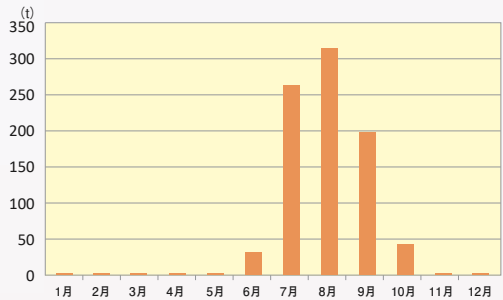
きゅうりは、形状、鮮度に加えて、色、光沢など外観が重視される傾向が強く、青森県ではブルームレスきゅうり（きゅうりの表面に白い粉がないもの）が主流となっています。

近年は、青森県に古くから伝わる「糠塚きゅうり」など、こだわりの個性派も出荷されています。

全国の生産状況 (R3)

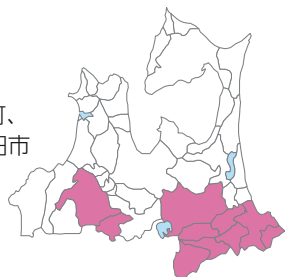
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	宮崎	60,100	604
2	群馬	48,400	791
3	埼玉	41,300	592
4	福島	35,400	678
5	千葉	28,300	433
25	青森	5,220	145
	全国	478,800	9,940

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋きゅうり 弘前市、大鱈町、八戸市、三戸町、五戸町、
田子町、南部町、階上町、新郷村、十和田市



産地レポート

J A八戸野菜総合部会きゅうり専門部

産地の情報

三八地域は県内一の夏秋きゅうりの産地です。その産地を支えるJ A八戸野菜総合部会きゅうり専門部は、合併前の旧川内農協や旧新郷村農協に昭和60年代に設立されました。令和4年の部会員数は94名、共販面積は9.4haとなっています。特に新郷村は若手生産者が多く、県内一の産地をけん引しています。

主な作付品種は「夏もよう」で約8割を占めます。栽培は、ハウス栽培と露地栽培がありますが、露地栽培が主体となっています。

品質の良いものを出荷するために、栽培講習会は、その地域で多く作付けされている品種の種苗メーカーを講師として開催し、品種に合った栽培技術の向上に努めています。

また、生産されたきゅうりは、主に関東方面に出荷しています。

色、つや、味の良いきゅうりを作る！

「常にきゅうりの葉の状態を観察しながら、肥料などの栽培管理を行うよう心がけています。」と話してくれたのは、J A八戸野菜総合部会きゅうり専門部長の畠山賢寿さん。

おいしいきゅうりを作るために、米ぬかや完熟堆肥を使うなど土づくりも大切にしているとのことでした。収穫作業が忙しい時には、朝、夕2回収穫し、1日で500kgもの収穫があるそうです。



畠山賢寿部長

ピーマン



高齢者や女性が生産を支える！
出荷量は全国 8 位も夏場の首都圏
の需要に欠かせない産地！

青森県のピーマンは、7月から10月に出荷される夏秋ピーマンが中心で、東青地域や三八地域などに産地が形成されています。

8月から9月に出荷のピークを迎え、東京都中央卸売市場のシェアは全国4位を誇ります。

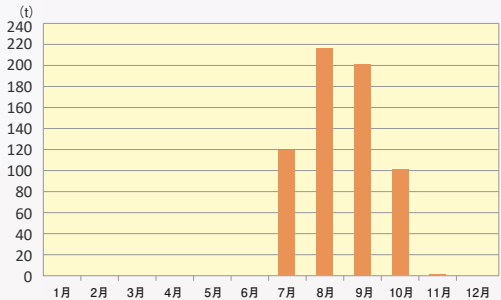
収穫は、すべて手作業となることから、多くの労働力を必要としますが、果実が軽いことから、高齢者や女性が比較的取り組みやすい品目として定着しています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	茨城	31,500	542
2	宮崎	25,200	294
3	鹿児島	12,600	138
4	高知	12,300	117
5	岩手	7,640	193
8	青森	3,630	105
	全国	132,200	3,190

※ししとうを含む

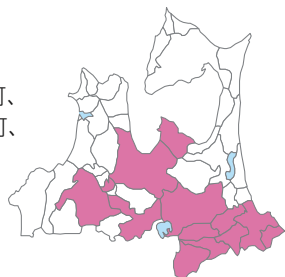
県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



項目/月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業	普通露地			は種		定植		収穫					
	出荷時期 (旬の時期)												

主な産地

夏秋ピーマン 青森市、平内町、弘前市、平川市、藤崎町、
八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、
階上町、新郷村、十和田市



産地レポート

J A八戸野菜総合部会ピーマン専門部

産地の情報

J A八戸ピーマン専門部の令和4年の生産者数は380名で、作付面積は42haとなっています。メインの露地の夏秋もののほか、トンネルの半促成栽培、一部でハウスの促成栽培もあり、作期の幅が広い産地です。

平成22年には夏秋ピーマンの指定産地に指定され、県内随一の産地が形成されています。



良品・安定生産に向けて

J Aでは、栽培技術向上のための講習会や出荷規格統一のための目揃会などを定期的に開催しています。常に多くの生産者が参加し、収量や品質向上に向けた技術を磨いています。

また、新品種の導入に当たって、品種の試作試験を行い、産地に合った品種を検討するなど、良品多収生産に向け産地一体となって取り組んでいます。

これらの取組が評価され、令和2年度には「青森県攻めの農林水産業賞」収益力強化部門の奨励賞を受賞しています。



みんなで産地を盛り上げる

ピーマン専門部長の大山省吉さんは「規模拡大に加え、より高品質なものをつくることで、青森のピーマンといえばJ A八戸のピーマンと言われるよう、産地として盛り上げたい」と熱く話してくださいました。栽培講習会や目揃会は会員の情報共有の場になっており、お互いが交流しながら切磋琢磨し、技術を磨くことで産地の活性化にもつながっています。



大山省吉部長

いちご



「冬春いちご」は、冬場の日照時間が長い太平洋側が主産地！
 夏季冷涼な気候を生かした「夏秋いちご」も生産拡大中！

いちごには、11月から6月にかけて収穫される「冬春いちご」と6月から11月にかけて収穫される「夏秋いちご」があります。

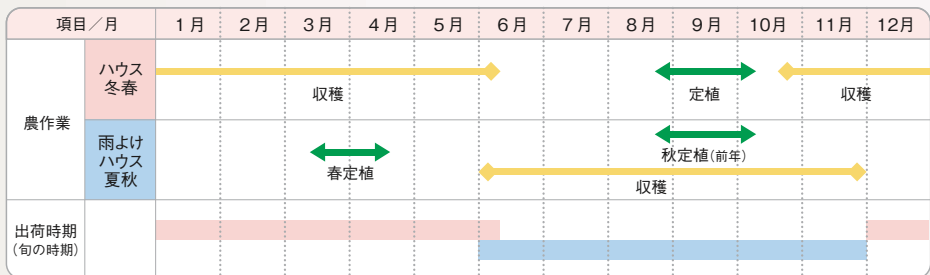
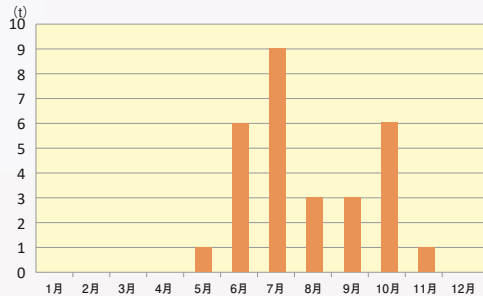
青森県のいちご生産は、「冬春いちご」が多く、冬場の日照時間が長い太平洋沿岸の八戸市が主産地で、出荷は県内市場へのお荷が中心となっています。

また、青森県の夏季冷涼な気候を活かした「夏秋いちご」が、中南地域と下北地域を中心に産地化が進み、県内各地に広がりを見せています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	栃木	22,900	509
2	福岡	15,800	428
3	熊本	11,500	298
4	愛知	10,400	254
5	長崎	10,300	266
24	青森	950	80
	全国	152,300	4,930

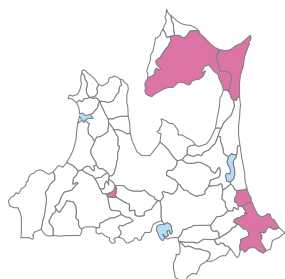
県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



主な産地

冬春いちご 田舎館村、八戸市、おいらせ町

夏秋いちご 田舎館村、むつ市、東通村



産地レポート

J A八戸野菜総合部会振興野菜専門部

産地の情報

冷涼な気候で生産される「八戸いちご」は、冬春いちごと夏秋いちごの両方を生産する県内唯一の産地となっています。温暖な地域に比べて、熟すまでの時間がかかるため、うま味が凝縮したおいしさが特徴です。

J A八戸野菜総合部会振興野菜専門部では冬春いちご生産者10名が、11月～6月にかけて「さちのか」と「よつぼし」を栽培しています。特に、「よつぼし」は病気に強く、多収量のほか、食べると甘みが口いっぱい広がる品種のため、生産者と消費者の両者から高い評価を得ています。



環境に配慮した生産

J A八戸では、温暖化で被害が増えているハダニ二防除への天敵利用を進めています。農作物に悪影響を与える害虫に対して、殺虫剤を使わずに防除できることから、殺虫剤の散布回数を減らす省力化が期待できるほか、環境にやさしい農業にも貢献しています。



糖度13度になるほどの甘さの秘訣

「よつぼし」を栽培しており「ジューシーで甘みのバランスが絶妙な八戸いちごを皆さんに是非食べていただきたい」と熱く語るのは、J A八戸野菜総合部会振興野菜専門部副部長の風穴求さん。

常に消費者から好まれるいちごを栽培するため、毎年変わる気象に合わせて、土づくりや温度、水の管理、追肥方法など日々試行錯誤しながら取り組んでいます。



風穴求副部長

えだまめ



転作作物として定着！
7月から10月まで、
安定した出荷で需要に応える！

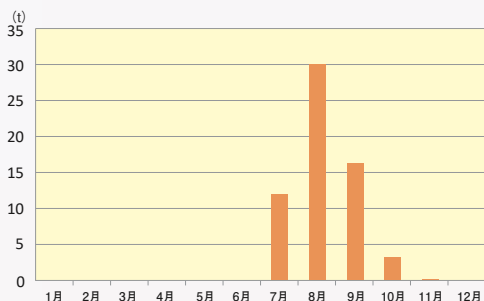
青森県のえだまめは、田子町、弘前市、鶴田町などで転作田を中心に栽培されています。品種を組み合わせることで作付けし、7月から10月まで出荷しています。

8月下旬以降は、食味の良い在来種の「毛豆」や「毛豆」から生まれた「あおり豊丸」、「あおり福丸」が出荷されます。さやに茶色のフサフサした毛があり、粒がとても大きく、味が濃いのが特徴です。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	9,470	1,290
2	群馬	6,420	1,110
3	千葉	4,800	750
4	山形	4,640	1,410
5	埼玉	4,410	638
15	青森	427	250
	全国	56,100	12,800

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



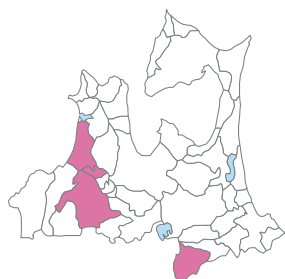
項目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業												
	露地・移植 マルチ			● ← ● → ● は種 定植								
農作業												
	露地				● ← ● は種		← ● → 収穫					
出荷時期 (旬の時期)								■				

主な産地

中南地域 弘前市

三八地域 田子町

西北地域 鶴田町、つがる市



産地レポート

J A八戸野菜総合部会豆類専門部田子支部

産地の情報

田子町でのえだまめの栽培の歴史は古く、40年以上にもなります。現在は、JA八戸野菜総合部会豆類専門部の田子支部として生産しており、生産者数45名、栽培面積は12haの産地となっています。

田子支部では、生産したものを単に販売するだけでなく、お客様のニーズ（市場の要望）にしっかり応えることを大切にしています。



県認証の特別栽培の取組

平成12年の県の認証制度の開始当初から、市場からの要請に応じて、農薬や化学肥料の使用量を通常の5割以下に減らして生産する特別栽培に取り組んでいます。田子支部の出荷量の約40%を特別栽培が占めています。

独自の仕立と丁寧な収穫・調製

田子支部のえだまめは、主に枝付きのままに関東の市場に出荷され、その甘みの強さと鮮度の良さから、高値で取引されています。枝付きで出荷するには、莖の長さや太さを調節する独自の仕立ができなければなりません。

また、収穫と調製は、傷みを無くするためすべて手作業で行い、丁寧に洗浄した後に、一つ一つ葉を落として選別します。

出荷基準を守ったえだまめだけが、生産者の名前付きの専用の袋に詰められ出荷されるのです。



生産者の田中さん、菊地さん、西村さん

さやいんげん



温暖で夏季冷涼な気候を好む！
東京都中央卸売市場の
9月入荷量は全国2位！

さやいんげんは、緑色野菜で栄養価が高く、用途が幅広いため、消費が伸びています。

青森県産は、県内及び東北向けは平さや、東京向けは丸さやが主体となっています。代表的な品種は、平さや品種では「マンズナル」、丸さや品種では「スーパーステイヤー」が栽培されています。

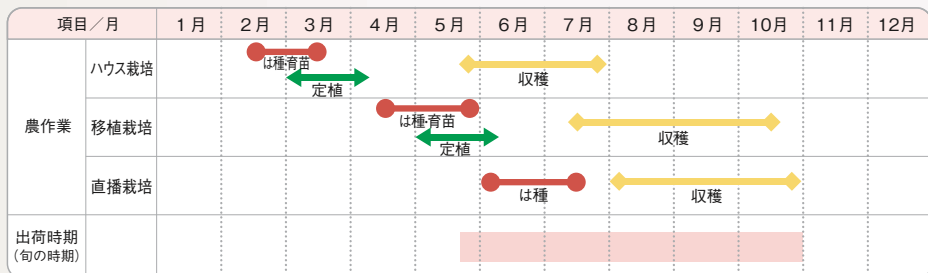
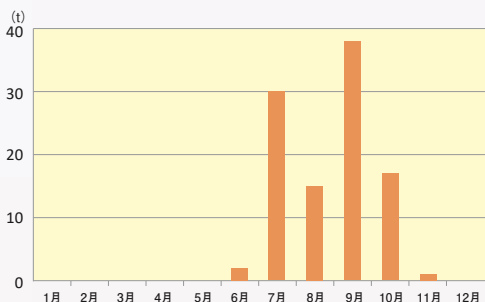
夏場に生産され、東京都中央卸売市場の9月の入荷量では、青森県産が福島県産に次ぐ全国2位を誇っており、国内出荷量の約2割を占めます。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	4,260	431
2	北海道	3,730	494
3	福島	2,210	459
4	鹿児島	1,780	222
5	沖縄	1,770	165
15	青森	369	98
	全国	24,400	4,810

※いんげんのデータ

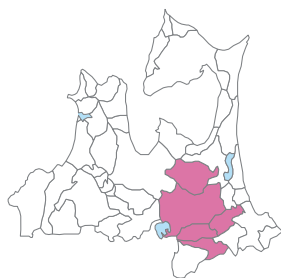
県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



主な産地

三八地域 三戸町、五戸町、新郷村

上北地域 十和田市、七戸町



産地レポート

J A八戸野菜総合部会豆類専門部

産地の情報

八戸市、五戸町、南部町を中心に生産者93名がさやいんげんの栽培に取り組み、共販面積は4.4haで、県内1位の産地となっています。

栽培は、ハウスと露地で行われており、収穫・出荷は5月下旬から10月下旬までとなっています。

鮮度管理を徹底し、新鮮なさやいんげんを常に出荷するよう部員一丸となって取り組み、市場から高評価を得ています。



鮮度の良い物をしっかり出荷

「品質と味を一番に考えて栽培している」と話すのは、J A八戸野菜総合部会豆類専門部副部長の田中友康さん。特に土づくりに力を入れており、完熟堆肥の他にも木灰を入れたり、有機質肥料を使用しています。また、農業にできるだけ頼らない栽培を心がけています。

忙しい時期でも新鮮なさやいんげんを出荷するため、出荷のピーク時には朝夕の2回採りを行い、収穫したものは発泡スチロールに入れて水分が飛ばないように管理を徹底し、鮮度の良いものを届けています。

「部員全員で適期収穫を心がけており、毎年、6月には専門部による管内視察を行って、部員同士の情報交換に努めている」と専門部の活動についても紹介していただきました。



田中友康副部長

ね ぎ



ながいもなどの輪作や転作田への導入で生産が拡大！

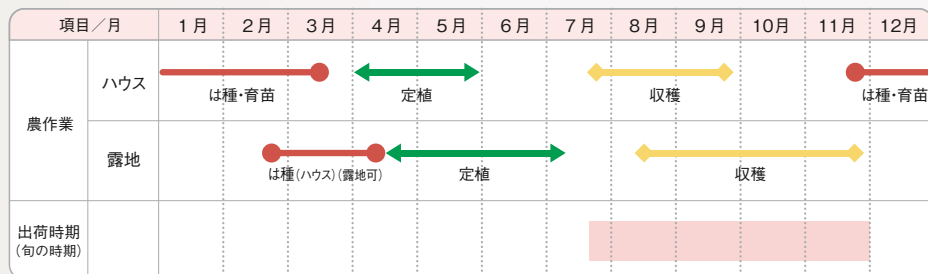
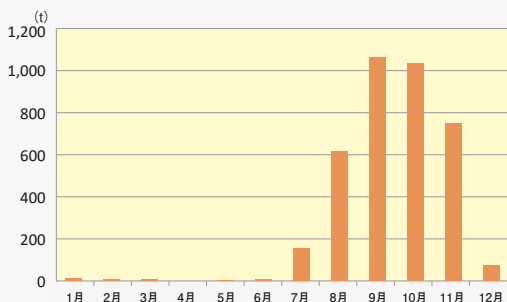
関東では白い部分が長い根深ねぎ（白ねぎ）が好まれ、関西では緑色が大部分の葉ねぎが好まれますが、青森県での生産は、土寄せをして軟白化させた根深ねぎが主体となっています。

県南地域ではながいも等との輪作作物として、また、津軽地域では主に水田の転作作物として作付けされています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	47,500	2,020
2	茨城	45,600	1,990
3	埼玉	43,900	2,150
4	北海道	20,400	654
5	大分	14,900	983
11	青森	9,230	474
	全国	364,700	21,800

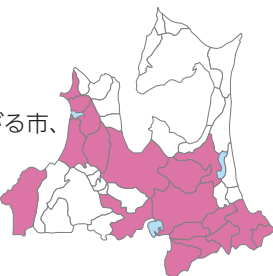
県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



主な産地

夏ねぎ 青森市、八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、五所川原市、つがる市、中泊町、十和田市、七戸町、東北町

秋冬ねぎ 平川市、八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、五所川原市、つがる市、深浦町、中泊町、十和田市、七戸町、東北町



産地レポート

J A つがるにしきたつがるやさい部会ねぎ班

産地の情報

つがる市は、津軽平野の中央部から西に位置し、基盤整備された広大な水田地帯で、ねぎは転作作物の1つとして作付けされています。令和4年度の班員は68名、作付面積は約25haとなっています。

収穫したねぎは、箱にきれいに並べられて、関東方面に向けて出荷されています。

また、更なる品質向上のため、講習会を開催しているほか、品種比較試験を実施しています。



業務用ねぎの取組

平成26年から業務用の加工ねぎの栽培にも取り組んでいます。契約栽培のため、安定した価格で取引されています。10kgのコンテナで出荷されており、葉の枚数や白い部分の長さの制約がないため栽培管理や出荷調製作業の省力化が図られています。



高品質生産への取組

班長の山谷清之助さんは、「曲がりがなく、真っ直ぐで、きれいな姿のねぎを栽培するために、毎年の気象や生育状況に合わせて、肥料の種類や散布する時期、量を調整しており、ねぎの栽培は難しい」と話してくれました。取材当日は、手間をかけて大切に育てたねぎを1本ずつ丁寧に箱に詰めて出荷している姿が印象的でした。



山谷清之助班長親子

キャベツ



東京都中央卸売市場の
8月入荷量は全国6位！

青森県のキャベツは、7月から10月に生産される夏秋キャベツを中心に出荷されており、主な産地は、おいらせ町、平川市などとなっています。

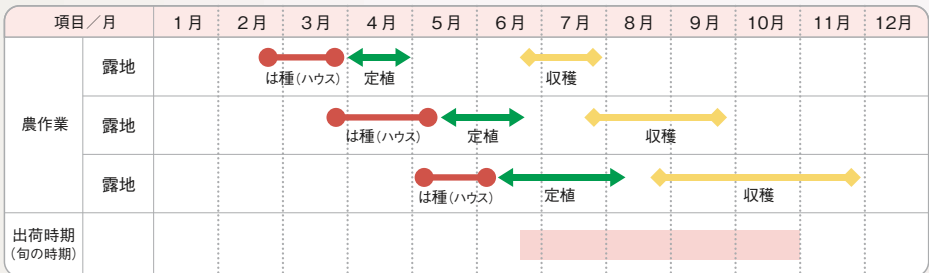
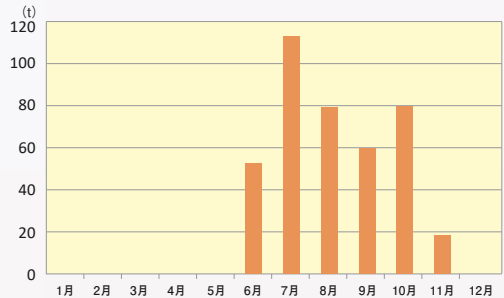
キャベツの品種・系統としては、「春系」や「寒玉系」などが代表的で、春系（サワー系）は葉がやわらかでサラダ向き、寒玉系は葉がやや硬めで加熱すると甘くなることから餃子やロールキャベツに向きます。

青森県では、春系をメインに、用途や生産時期に応じて寒玉系も生産されています。

全国の生産状況 (R3)

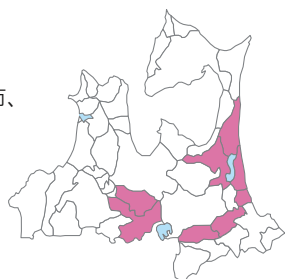
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	愛知	252,200	5,440
2	群馬	251,700	4,340
3	千葉	112,300	2,730
4	茨城	103,500	2,370
5	長野	67,400	1,560
16	青森	15,000	442
	全国	1,330,000	34,300

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋キャベツ 黒石市、平川市、五戸町、新郷村、三沢市、東北町、六ヶ所村、おいらせ町



産地レポート

J A十和田おいらせももいし支店

産地の情報

J A十和田おいらせももいし支店のあるおいらせ町は、県内一の夏秋キャベツの産地として、県内外から高い評価を得ています。

J Aでは、国内需要への対応と生産者の所得確保、収益性向上を目的に、平成18年から加工・業務用キャベツの生産に取り組んでいます。



契約取引の取組

J Aでは、主にサラダ商品用の材料として、県内外の流通・加工業者と加工・業務用キャベツの契約取引を行っています。契約先の要望に応えながら、良いものを安定して出荷し、市場との信頼関係を築くよう努めています。

令和4年度はももいし支店で約1,014トンを出荷しました。



高品質なキャベツを届けたい

「青森県産はおいしいからと多くの方に選んでいただけるよう、部会みんなで日々努力を惜しまない」と語るのは、青森県青年農業士の越沢正輝さん。同じキャベツ生産者である父の背中を追い、若手生産者として日々奮闘しています。

キャベツを生産するうえで、特に「量」より「質」を重視しているそうで、病気が発生しないよう、緑肥作物を取り入れたりと土づくりに力を入れて、安心・安全でおいしいキャベツを食卓に届けるために励んでいます。



青森県青年農業士の越沢正輝さん

レタス



涼しい気候の八甲田高冷地が産地！
高原レタスは鮮度の良さが決め手！

冷涼で乾燥した気候を好むレタスは、高原野菜の代表格として、長野県や群馬県をイメージする方も多いと思いますが、青森県においても、夏季冷涼で昼夜の気温差が大きい八甲田高冷地を中心に、夏秋期のレタスが生産されています。

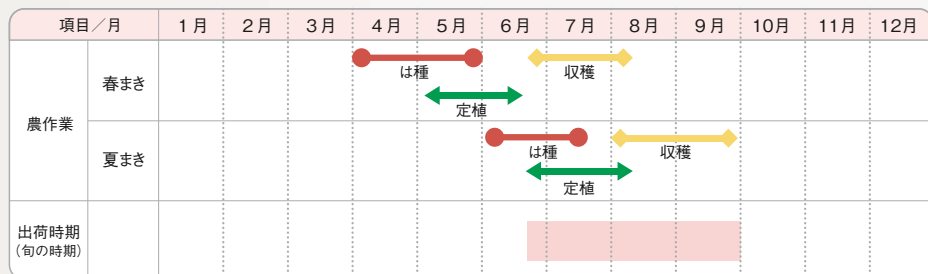
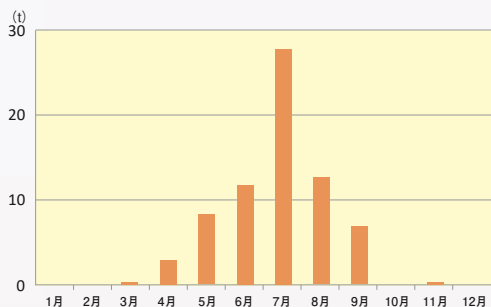
主な産地は、中南地域（黒石市、平川市、弘前市）の高冷地で、6月から9月を中心に出荷しています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	長野	173,900	5,440
2	茨城	83,700	3,420
3	群馬	51,600	1,350
4	長崎	31,700	940
5	兵庫	24,700	1,180
21	青森	1,790	90
	全国	516,400	20,000

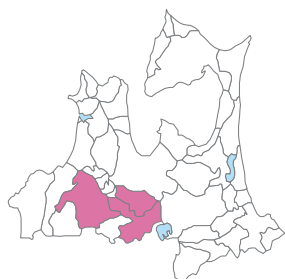
※サラダ菜を含む

県産月別入荷量 (R3全農青森県本部取扱)



主な産地

夏秋レタス 弘前市、黒石市、平川市



産地レポート

有限会社サニタスガーデン

産地の情報

夏季涼涼な高冷地は、レタスなど暑さに弱い野菜の栽培に適しています。昼は涼しいながらも、夏の日差しを受けて光合成が進むことで、全身に糖類が蓄えられます。夜温は低いため、呼吸による糖類の消費が少なく、野菜は甘くなります。

(有)サニタスガーデンのある黒石市沖揚平は、八甲田横岳の西側、標高650～800mに位置する高原で、広大な野菜畑が広がっています。



一面に広がるリーフレタス畑

品質の良いレタスを届けたい

社長の山田広治さんは、神奈川県出身。(株)野菜くらぶの独立支援プログラムに参加し、群馬県でレタスの栽培技術を習得した後、もっと品質の良いレタスを消費者に届けたいとの思いから、八甲田山高冷地の沖揚平に移住しました。(有)サニタスガーデンの立ち上げから20年になり、レタスを主力に、白菜やジャガイモなどの生産にも取り組んでいます。



山田広治社長



カット野菜業者や大手ハンバーガーチェーンと全量契約栽培

(有)サニタスガーデンでは、3名の社員のほか、繁忙期には5～6名に作業を手伝ってもらい、10haの畑でレタスを栽培しています。季節ごとに品種を変えて栽培するレタスは10種類以上で、4月の育苗から始まり、収穫は10月まで続きます。

(有)サニタスガーデンで栽培されるレタスは、品質の良さと新鮮さから、契約先から高い評価を得ています。

ほうれんそう

ほうれんそうは秋からが旬！
夏場も涼しい青森県は
1年中栽培可能！



暑さに弱いほうれんそうは、夏が暑い他県では生産が困難です。このため、青森県では、涼しい気候を生かし、6月から9月を中心に生産されています。

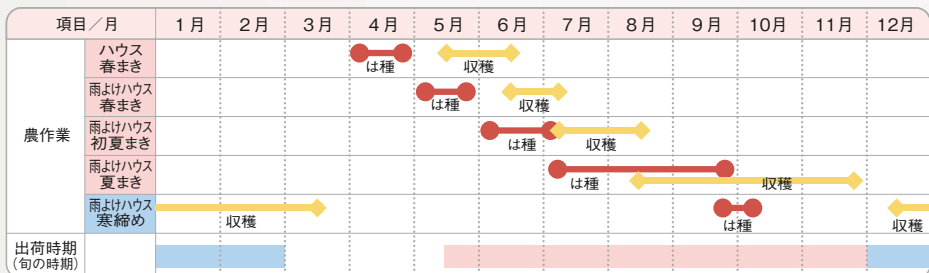
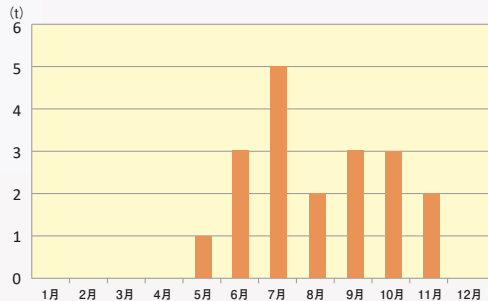
寒さには強く、冬でも無加温ハウスで栽培できることから、年間を通じた生産も行われています。

は種から約1か月で収穫でき、軽作業でできることから、高齢者でも生産が可能です。

全国の生産状況 (R3)

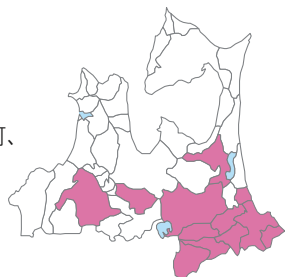
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	群馬	19,500	1,990
2	埼玉	19,000	1,820
3	千葉	17,000	1,710
4	茨城	16,000	1,350
5	宮崎	11,800	865
—	青森	—	—
	全国	179,700	19,300

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



主な産地

- 中南地域 弘前市、黒石市
- 三八地域 八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村
- 上北地域 十和田市、東北町、おいらせ町



産地レポート

J A八戸野菜総合部会振興野菜専門部

産地の情報

J A八戸野菜総合部会では、冬場の所得確保のために、平成17年から新郷村で輪ギクの後作として寒締めほうれんそう栽培の取組を進めました。このほうれんそうは、9月下旬～10月上旬のは種直後からハウスを開放し、寒さに当てることによって、通常より甘みを増した「寒締めちぢみほうれんそう」として12月中旬から2月下旬頃まで販売しています。

この取組は現在、八戸市、五戸町、南部町などJ A八戸管内全域に広がり、生産者は40名、作付面積は約3haの産地となっています。



ほ場の様子



寒締めちぢみほうれんそう



目揃会の様子



若手生産者の木村良輔さん

ブランド化に向けた取組

J A八戸では、寒締めちぢみほうれんそうのブランド化を図るため、出荷先の市場や県の農業普及振興室と連携した栽培研修会等を開催しているほか、栽培マニュアルの作成や、マルチ栽培による茎葉への土の付着防止、土壌肥料分の測定による適正な施肥管理など栽培技術の向上に努めています。

また、出荷前には目揃会を開催し、糖度8度以上を確認してから出荷するなど、品質や規格を統一した販売を行っています。

また、新規作付者への生産指導も積極的に行っており、活気あふれる産地づくりに力を入れています。

ブロッコリー



転作田への導入で生産拡大！
夏季冷涼な気候で全国的に
品薄な夏秋期に出荷！

ブロッコリーは、夏期は北海道や長野県、秋冬期は愛知県や埼玉県から出荷が多く、青森県ではこれらの産地の端境期となる6月と10月を中心に生産・出荷されています。

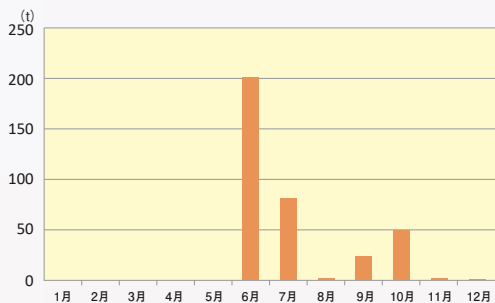
主な出荷先である首都圏では、鮮度の良さで高い評価を得ています。

県内では、日本海側の津軽平野で水田転作として作付けが増えています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	26,500	3,030
2	埼玉	13,700	1,200
3	愛知	13,600	945
4	香川	12,700	1,330
5	長野	10,900	1,090
23	青森	1,100	170
	全国	155,500	16,900

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)

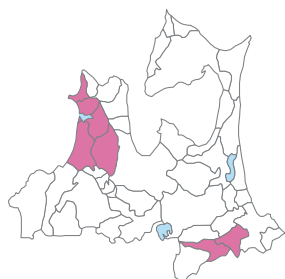


項目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業												
出荷時期 (旬の時期)						6月			9月			

主な産地

三八地域 三戸町、南部町

西北地域 五所川原市、つがる市、中泊町



産地レポート

JAつがるにしきたつがるやさい部会

産地の情報

つがる市は、津軽平野の岩木川左岸に位置する古くからの米どころで、米の生産調整の強化を背景に、早くからトマトやねぎ等との複合経営化が進められてきました。

その中で、ブロッコリーは平成12年に作付けが開始され、他品目と労力が重ならず夏場に収益が得られる品目として生産が拡大し、令和4年の作付面積は約57ha、販売金額は約1億4千万円となっており、県内随一の産地です。



機械による定植作業

鮮度を保持する出荷体制を整え市場から高評価

気温の低いうちに収穫したブロッコリーは、すぐに集出荷施設へ搬入され、選別、発泡スチロール箱への箱詰めを経て、保冷庫に保管されます。翌朝、細かく砕いた氷が箱いっぱい詰められ、鮮度とおいしさを保ったまま保冷車で首都圏に出荷されていきます。



若手生産者の奈良岡翔平さん

集出荷施設は、面積拡大に伴い、ブロッコリー集出荷貯蔵施設（平成22年）、貯氷量8トンの製氷貯氷機施設（平成28年増設）、ブロッコリー形状重量式選果機（平成29年）が導入され、予冷から氷詰め、梱包まで効率的なラインが完備されています。



選果・箱詰め作業



予冷庫保管



氷詰め

スイートコーン



日中と夜間の温度差が甘さの秘訣！
出荷のピークは8月！

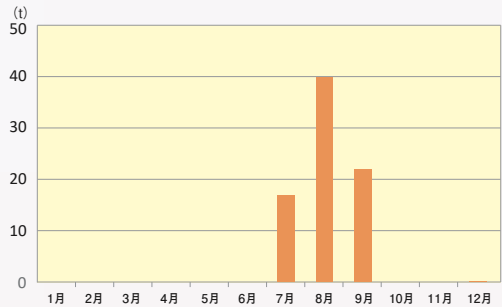
スイートコーンは、栽培が容易で労力がかからないこと、また、イネ科作物として一般野菜との関連病害が少ないため、他の野菜との輪作体系に組み込むことが可能な作物です。

青森県の岩木山麓の嶽地区産は食味評価が高く、「嶽きみ（だけきみ）」の商標で販売されており、全国的に有名な産地となっています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	77,600	7,210
2	千葉県	14,100	1,680
3	茨城県	11,500	1,320
4	群馬県	10,200	1,180
5	山梨県	7,610	728
14	青森県	1,520	400
	全国	178,400	21,500

県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



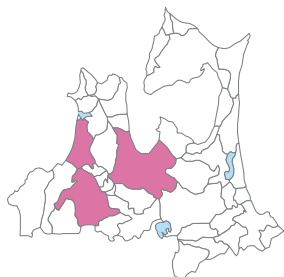
項目/月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業	平坦地				●	—	●		◀	—	▶		
	高冷地						●	●		◀	—	▶	
出荷時期 (旬の時期)									■	■	■		

主な産地

東青地域 青森市

中南地域 弘前市

西北地域 つがる市



産地レポート

J A つがる弘前嶽きみ部会

産地の情報

弘前市の西部にある津軽富士とも称される「岩木山」。その岩木山の南麓、標高400～500メートルにある嶽高原で栽培されるともろこしが「嶽きみ（だけきみ）」です。

16名の部会員が、鮮度の高い「嶽きみ」を消費地に届けるために、気温の低い早朝から収穫しています。

収穫期はその年の気象により多少前後しますが、生鮮品は、8月から9月までの季節限定商品となっています。

また、平成19年4月に地域ブランド産品として、「嶽きみ」が地域団体商標に登録されています。



岩木山南麓のおいしさを届ける

昼夜の寒暖差と日当たりの良さが実の甘さに影響し、取れたての「嶽きみ」は、メロン並の糖度を誇ります。

その甘さと食感から人気が高く、収穫期には岩木山麓にある直売店に多くの人が立ち並び、宅配等でも全国に発送されています。

嶽きみのおいしさの秘密

部会長の加賀谷靖彦さんは、「おいしい嶽きみを生産するために、決して楽ではない生産環境の中、生産者が手間暇を惜しんでいない」と自信を持って力説します。獣や病害に苦しんだ時期がありましたが、長い年月をかけての土づくりを基本に、実直な生産者によって守られてきたのが「嶽きみ」のおいしさの秘密と言えます。



加賀谷靖彦部会長

アスパラガス



県内の夏場のアスパラガスは
ほぼ青森県産！

青森県のアスパラガスは、出荷量が全国15位で、一大産地の鱒ヶ沢町を筆頭に、藤崎町と続き、県内各地で栽培されています。

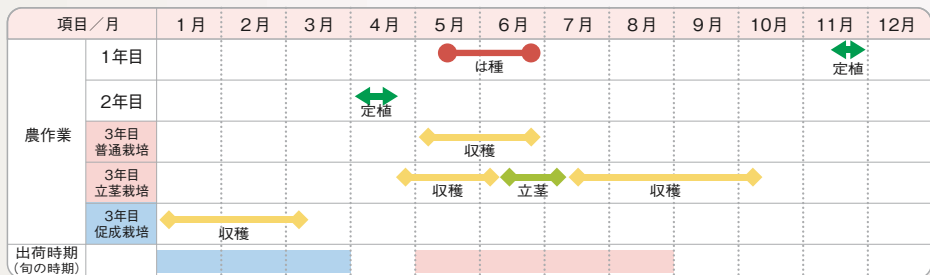
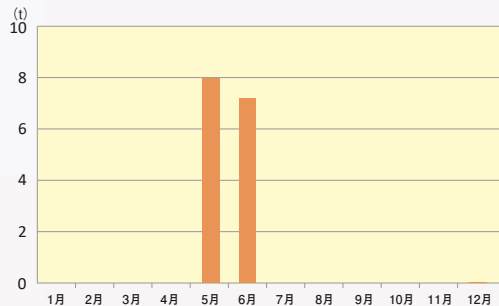
県内市場への出荷が約6割を占め、特に5月から8月には、ほぼ青森県産の入荷となっています。

4月下旬から6月下旬頃に収穫する普通栽培を主体に、更に収穫時期を拡大するため、早めに若莖を伸ばして光合成をさせながら収穫を続ける立莖栽培や、夏に養成した親株をハウスに伏せ込んで冬場に出荷する促成栽培などが行われています。

全国の生産状況 (R3)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	2,670	1,060
2	佐賀	2,350	120
3	熊本	2,210	100
4	長崎	1,760	108
5	福岡	1,750	88
15	青森	410	131
	全国	22,400	4,500

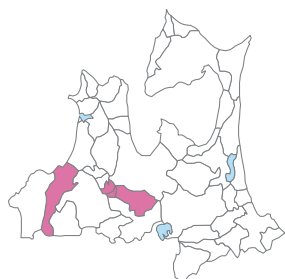
県産月別入荷量 (R3東京都中央卸売市場)



主な産地

中南地域 黒石市、藤崎町、田舎館村

西北地域 鱒ヶ沢町



産地レポート

J Aつがるにしきた白神やさい・果実部会 アスパラ・そさい班

産地の情報

岩木山の麓に位置する鱒ヶ沢町長平地区では、加工だいこんに代わる品目として、価格が比較的安定し、春から収入が得られるアスパラガスが注目され、昭和50年代半ばから栽培が始まりました。

昭和58年には、部会が設立され、長平地区以外でもアスパラガスを導入する生産者が増加したことで、現在では、生産者数47名、作付面積38.9haの県内最大級のアスパラガス産地に成長しました。

栽培の特徴

主な品種は、「ウェルカム」、「スーパーウェルカム」で、近年は、病気に強く、種子の付かない全雄品種の「ゼンユウガリバー」の導入が増えています。

5月上旬～6月下旬まで収穫する普通栽培を主体に、4月下旬～6月上旬頃まで収穫した後、6月中旬から1か月程茎葉を伸ばして養分を蓄え、7月中旬～10月下旬まで再び収穫する立茎栽培に取り組む生産者も増えています。



長平地区のアスパラガスほ場



対馬孝班長

J Aつがるにしきたつがる白神やさいセンターにおける共同選別・共同出荷

昭和63年から共同選別・共同出荷が始まり、平成11年には全自動選別機が導入され、効率的な出荷体制が整いました。

また、新規作付者の増加や集出荷の一元化に伴う取扱量の増加、立茎栽培の増加による販売期間の延長に対応するため、平成27年には、新たに高性能な全自動選別機を導入し、年間約90トンのアスパラガスが市場に出荷されています。



自動選別機での選別



結束・箱詰め作業



箱詰めされたアスパラガス

青森の伝統的・特徴的野菜

一球入魂かぼちゃ



「一球入魂かぼちゃ」は、株全体のうまみを1つの果実に凝縮させたおいしい高級かぼちゃで、下北地域と今別町の特産野菜です。濃い緑色の果皮、鮮やかな山吹色の果肉、糖度13～15度の甘さ、ホクホクとした食感の絶妙なバランスが特徴です。

十和田おいらせ農業協同組合が「一球入魂かぼちゃ」で商標登録し、販売しています。

旬：8月～10月

筒井紅かぶ・笄石かぶ



青森市筒井では「筒井紅かぶ」、久栗坂では「笄石かぶ」という赤かぶが100年以上前から漬物用として栽培されています。収量が低く、漬物需要の減少などから作付けが減少していましたが、平成26年に「あおもり伝統野菜研究会」が結成されて作付けが拡大し、その後「aovege (アオベジ)」が引き継いで生産・販売しています。

旬：10月下旬～11月上旬

- ・「筒井紅かぶ」：内部がほんのり赤く、一部濃い赤色部分があり、生食ではやや辛みがありますが、加熱すると甘みが出てきます。
- ・「笄石かぶ」：内部が白く、一部ピンク色の部分があり、生食でやや甘みがあり、漬けると辛みが出ます。

清水森ナンバ



旧津軽藩主が京都から持ち帰ったのが始まりとされる在来のとうがらしで、弘前市清水森で栽培されています。

品種は「弘前在来トウガラシ」で、青ナンバは7～10月、赤ナンバは9～10月に収穫し、爽やかな辛さとほのかな甘みが特徴の特産品として販売されています。

平成16年に、関係者と学識経験者が「在来津軽『清水森ナンバ』ブランド確立研究会」を設立し、種子の確保、栽培体系の確立に取り組み、令和2年には地理的表示(GI)として登録されています。

旬：7月～10月

大鰐温泉もやし



大鰐温泉の特産品で、350年以上前から温泉を熱源とした半地下の「土室(つちむろ)」の中で豆もやしとそばもやしが生産されています。

栽培から出荷洗浄まで、全て温泉水を使っていることから、独特の芳香とシャキシャキした食感が特徴です。おひたしや炒め物、ラーメン、鍋物などに使われています。

旬：11月～4月

オコッペいもっこ



大間町奥戸(おこっぺ)では、ばれいしょの希少品種「三円薯(さんえんいも)」が明治時代から作り継がれ、「オコッペいもっこ」の名で愛されています。偏卵形で肉色は白、煮えやすく、ほどよく粉を吹き、サラサラとした食感が特徴です。

「オコッペいもっこ」は、地域の伝統食材として大手量販店の「フードアルチザン(食の匠)」に認定され、町のふるさと納税返礼品としても提供されています。

旬：9月～12月

食用ぎく



三八地域で古くから栽培される主力品種の「阿房宮」は、鮮やかな黄色と気品のある香り、シャキシャキした食感が特徴です。

10月下旬から11月上旬にかけて摘み取られ、酢の物や和え物などの郷土料理の彩りとして欠かせない存在となっています。蒸して乾燥させた「干し菊」は、特産品となっています。

旬：10月下～11月上

一町田せり



岩木山のふもとに広がる弘前市一町田(旧岩木町)では、藩政時代から湧き水を利用した「一町田せり」が栽培されています。湧き水は、「清水っこ」と呼ばれ、厳寒期でも決して凍ることがなく、年間を通して約10℃の水温が保たれています。

「一町田せり」は、独特の強い香りとシャキシャキとした歯触りがあり、根までおいしいのが特徴です。

旬：12月～2月

糠塚きゅうり



「糠塚きゅうり」は、藩政時代に八戸市糠塚地区に植えたのが始まりとされています。病気に弱く収量が少ないため作付けが減少しましたが、平成26年に「八戸伝統野菜『糠塚きゅうり』生産伝承会」が設立され、現在、生産者9名で生産に取り組んでいます。

よく冷やしたものを割って種を取り、味噌をつけて食べるのが最もおいしいといわれ、夏の風物詩として親しまれています。歯切れのよい食感とみずみずしさが魅力です。

旬：6月下～9月上

南部太ねぎ



一般品種と比べて甘く、鍋や天ぷらなどに合うことから南部町で多くの農家が栽培していましたが、新品種開発や機械化に伴って衰退し、栽培者が1人だけになっていました。

名久井農業高校の生徒が、種を譲り受けて栽培方法を研究し、復活させました。その思いが地元の農家に引き継がれ、現在では10人が栽培しています。

旬：10月～11月

青森の「冬の野菜」たち

青森県では、農業者の冬期間の就労機会の拡大と所得向上を図るため、「冬の農業」を推進しています。

冬の農業は病虫害の発生が少なく、ほとんど農薬を使わずに生産できるため、安心・安全です。

雪中栽培

晩 秋まで栽培した野菜を、厳しい寒さにあたらぬ雪の下で冬越しさせ、冬から春にかけて収穫・出荷します。

【雪下ニンジン】

秋までに収穫したにんじんを雪の下で熟成させ、冬の間は1本1本丁寧に掘り取ります。冬の寒さにあたることで、甘み成分や味・栄養価が高まることが報告されています。主に深浦町で生産されています。



無加温ハウス栽培

保 温資材のトンネルがけ・べたがけや、内張りすることで、寒さに強い野菜を栽培できます。また、ハウスを開けて寒さにあてた、寒締め菜の生産も可能です。



【寒締めほうれんそう】

秋の終わり頃から徐々に寒さに慣らしながら冬の寒さにあてることで、糖分などの凍りにくい成分が蓄積し、代わりにえぐみ成分が少なくなるとされています。

また、寒締めほうれんそうには眼病予防に効果があるとされる、機能性関与成分「ルテイン」が多く含まれており、味だけでなく、栄養素にも優れています。主に、八戸市や東通村で生産されています。

加温ハウス栽培

暖房することで、寒さに弱い野菜でも栽培できます。ボイラーの温風・温水や、県内に豊富にある温泉水を循環させ、ハウス内の空気や土を暖めて栽培します。

【冬春いちご】

主に田舎館村、八戸市、おいらせ町で生産されています。田舎館村では、地域資源である温泉熱を活用し、地温を一定に保つことによって、寒い冬でも甘みの詰まったいちごを栽培する例もあり、燃油価格高騰の影響を最小限に抑えながら、環境に優しい栽培が可能です。

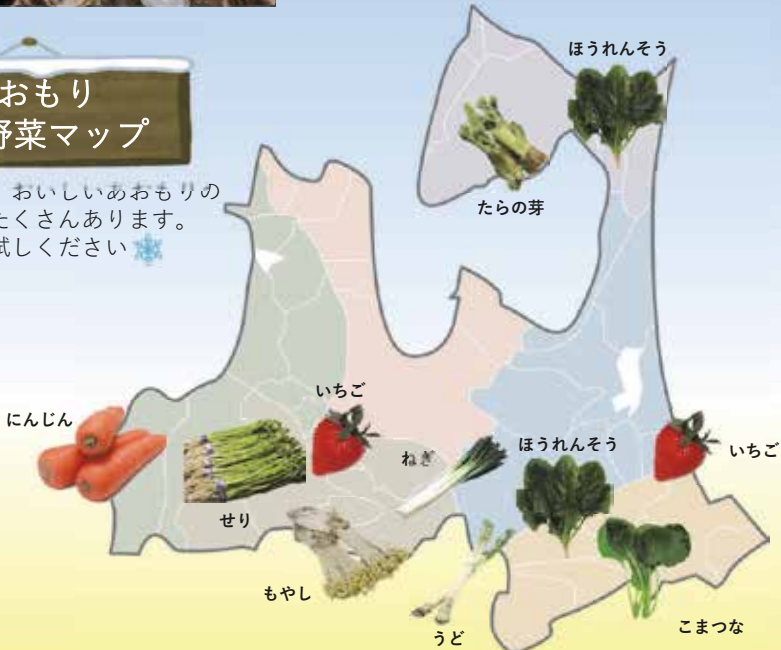


【たらの芽】

たらの木から芽の付いた枝を節ごとに短く切り、ハウスの中で若芽を出させて早出しする「ふかし栽培」で栽培します。ハウス全体を暖房せず、ハウス内にトンネルをかけ、その中だけを電熱線等で加温する方法が主流です。山菜独特のえぐみや苦みが少なく、食べやすいのが特徴です。主にむつ市で生産されています。

あおもり 冬の野菜マップ

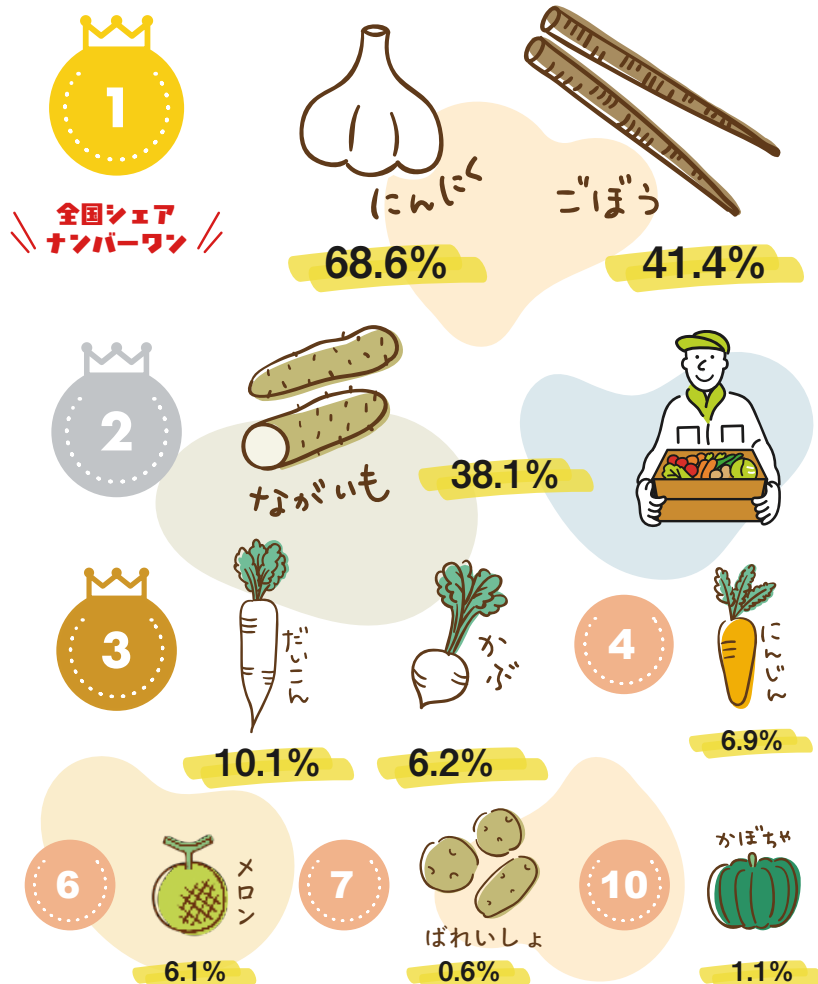
県内には、おいしいあおもりの冬の野菜がたくさんあります。是非、お試してください❄️



出荷量の全国ベスト10に9品目 (R3)

青森県で生産される野菜の中には、全国一の出荷量を誇るにんにく、ごぼうをはじめとして、ながいも、だいこん、かぶなど出荷量が全国の10位以内に入る品目が9品目あります。

《出荷量の全国順位とシェア》



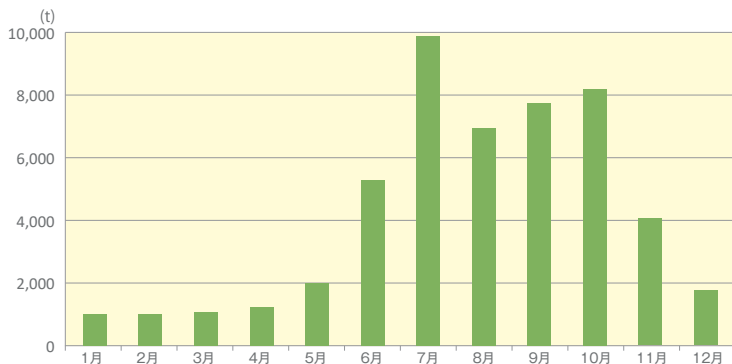
資料：野菜生産出荷統計 (R3)

夏秋期に高い評価

ながいもやにんにく、ごぼうなど貯蔵できる一部の品目を除くと、青森県産野菜の出荷時期は夏秋期が中心です。

一般に、気温が高くなると、病害虫の発生が多く良品質の野菜を生産することが困難になります。青森県は、夏場が比較的冷涼なことから、夏秋期に品質の高い美味しい野菜を生産しています。

【東京都中央卸売市場における青森県産野菜の入荷量(R3)】

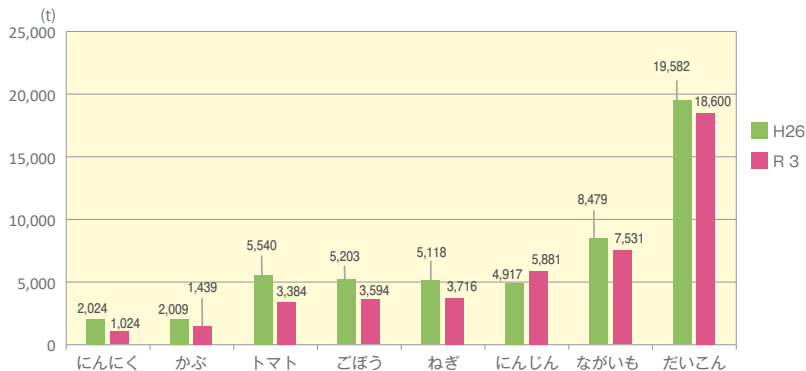


東北では1位のシェア

高速交通網の整備やコールドチェーン（産地から消費地まで一貫した低温状態での流通）の発達等によって遠隔地への出荷が拡大しています。

東京都中央卸売市場への出荷量は、令和3年には50,045トンで全国で7位、東北で1位のシェアを占めています。

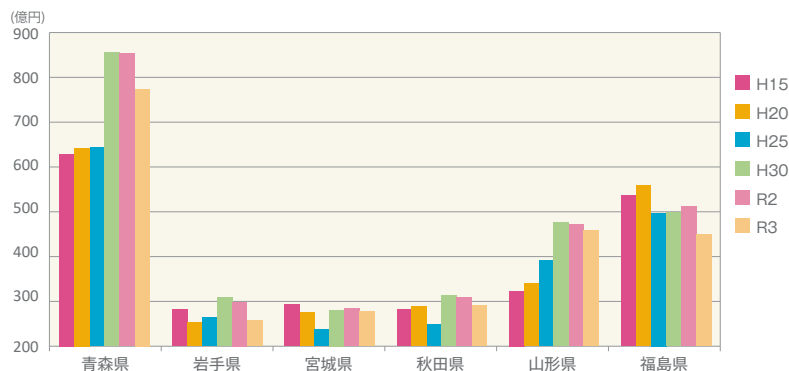
【東京都中央卸売市場における青森県産野菜入荷量の変化】



野菜産出額東北一を堅持

令和3年の野菜産出額（いも類含む）は、770億円となり、全国で9位、東北では平成6年に福島県を抜いて以来、28年連続して1位となっています。

【野菜産出額の推移】



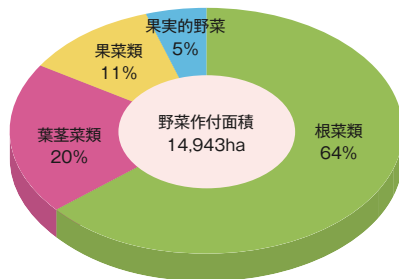
資料：生産農業所得統計
(令和4年12月)

広大な農地を利用して根菜類中心の作付け

令和3年の野菜作付面積は、14,943haと前年に比べやや減少しています。

品目別では、ながいも、ごぼう、にんにく、だいこんなどの根菜・土物類が大きな割合を占めています。

【青森県の野菜の類別作付面積構成比（R3）】



資料：野菜生産出荷統計（青森県データがある26品目で算出）
(令和4年12月)

付 表

主要野菜の生産・出荷状況 (R3)

(単位: ha、t、%)

区 分	青 森 県			全 国			全国シェア			全国順位		
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	面積	収穫量	出荷量	面積	収穫量	出荷量
だいこん	2,770	114,400	104,200	29,200	1,251,000	1,033,000	9%	9%	10%	2	3	3
ごぼう	2,370	51,200	48,300	7,410	132,800	116,700	32%	39%	41%	1	1	1
やまのいも	2,250	56,700	51,900	6,890	177,400	150,000	33%	32%	35%	1	2	2
うち、ながいも	2,230	56,400	51,700	5,170	156,200	135,800	43%	36%	38%	1	2	2
にんにく	1,430	13,500	9,610	2,520	20,200	14,000	57%	67%	69%	1	1	1
にんじん	1,260	42,500	39,900	16,900	635,500	572,400	7%	7%	7%	3	4	4
ばれいしょ	677	15,600	11,700	70,900	2,175,000	1,823,000	1%	1%	1%	8	8	7
ねぎ	474	11,800	9,230	21,800	440,400	364,700	2%	3%	3%	17	10	11
メロン	449	9,650	8,390	6,090	150,000	136,700	7%	6%	6%	5	5	6
キャベツ	442	17,300	15,000	34,300	1,485,000	1,330,000	1%	1%	1%	17	16	16
スイートコーン	400	3,040	1,520	21,500	218,800	178,400	2%	1%	1%	14	13	14
トマト	377	19,200	17,000	11,400	725,200	659,900	3%	3%	3%	6	11	11
うち、ミニトマト	69	3,570	3,340	2,680	161,600	150,900	3%	2%	2%	10	12	12
うち、加工用トマト	17	665	665	415	24,200	24,100	4%	3%	3%	5	6	6
えだまめ	250	993	427	12,800	71,500	56,100	2%	1%	1%	13	15	15
すいか	249	7,270	6,310	9,200	319,600	275,800	3%	2%	2%	13	14	14
すくさい	223	5,560	3,660	16,500	899,900	744,800	1%	1%	0%	21	25	22
かぼちゃ	219	2,610	1,580	14,500	174,300	140,400	2%	1%	1%	12	11	10
かぶ	173	6,230	5,600	4,010	108,200	90,700	4%	6%	6%	4	3	3
ブロッコリー	170	1,240	1,100	16,900	171,600	155,500	1%	1%	1%	19	23	23
きゅうり	145	6,270	5,220	9,940	551,300	478,800	1%	1%	1%	26	25	25
アスパラガス	131	562	410	4,500	25,200	22,400	3%	2%	2%	8	13	15
ピーマン	105	4,210	3,630	3,190	148,500	132,200	3%	3%	3%	7	8	8
うち、ししとう	0	2	2	293	5,700	4,760	0%	0%	0%	29	29	29
さやいんげん	98	646	369	4,810	36,600	24,400	2%	2%	2%	15	14	15
レタス	90	1,950	1,790	20,000	546,800	516,400	0%	0%	0%	22	21	21
うち、サラダ菜	x	x	x	471	9,780	9,100	-	-	-	-	-	-
いちご	80	1,140	950	4,930	164,800	152,300	2%	1%	1%	22	24	24
さやえんどう	63	272	166	2,740	19,800	13,000	2%	1%	1%	14	19	15
しゅんぎく	27	203	130	1,800	27,200	22,400	2%	1%	1%	19	24	24
そらまめ	21	209	188	1,690	13,900	9,910	1%	2%	2%	18	17	11
たまねぎ	25,500	1,093,000	988,500	-	-	-	-	-	-
ほうれんそう	19,300	210,500	179,700	-	-	-	-	-	-
さといも	10,400	142,700	96,100	-	-	-	-	-	-
なす	8,260	297,700	237,800	-	-	-	-	-	-
こまつな	7,420	119,300	106,900	-	-	-	-	-	-
れんこん	3,980	51,500	43,200	-	-	-	-	-	-
みずな	2,420	41,300	36,800	-	-	-	-	-	-
ちんげんさい	2,100	41,800	37,200	-	-	-	-	-	-
にら	1,930	56,300	51,500	-	-	-	-	-	-
しょうが	1,730	48,500	38,200	-	-	-	-	-	-
カリフラワー	1,240	21,600	18,500	-	-	-	-	-	-
みつば	862	13,700	12,700	-	-	-	-	-	-
グリーンピース	633	5,600	4,440	-	-	-	-	-	-
セルリー	541	30,000	28,800	-	-	-	-	-	-
ふき	456	8,420	7,190	-	-	-	-	-	-

注: 「-」は事実のないものを示す 「…」は生産・出荷の事実が不詳又は調査を欠くものを示す
「x」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

資料: 野菜生産出荷統計 (令和4年12月)

野菜生産状況の推移

区 分	青 森 県				全 国			
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	出荷率 (%)	作付面積 (ha)	収穫量 (千t)	出荷量 (千t)	出荷率 (%)
S50	17,500	397,500	268,580	67.6	656,200	17,906	13,346	74.5
S55	19,400	380,500	280,113	73.6	682,700	18,676	14,460	77.4
S60	21,030	451,947	354,041	78.3	681,100	18,896	14,811	78.4
H 2	22,170	495,529	387,064	78.1	647,200	18,107	14,269	78.8
H 7	21,250	490,791	396,001	80.7	588,200	16,907	13,557	80.2
H 8	21,130	482,076	383,604	79.6	579,300	16,666	13,376	80.3
H 9	21,030	489,856	388,721	79.4	569,300	16,675	13,426	80.5
H10	20,990	471,130	373,255	79.2	560,000	15,707	12,687	80.8
H11	20,940	494,424	392,552	79.4	553,200	15,829	12,804	80.9
H12	20,850	499,172	399,409	80.0	539,600	15,667	12,694	81.0
H13	20,130	482,354	386,881	80.2	524,800	15,547	12,628	81.2
H14	18,900	469,900	377,800	80.4	539,300	15,695	12,781	81.4
H15	18,200	440,000	357,600	81.3	528,200	15,169	12,419	81.9
H16	17,900	467,300	381,600	81.7	519,400	14,540	11,922	82.0
H17	17,100	457,600	374,900	81.9	511,900	14,528	11,895	81.9
H18	17,400	477,300	394,400	82.6	505,800	14,332	11,749	82.0
H19	18,126	482,798	404,609	83.8	503,360	14,746	12,230	82.9
H20	17,442	468,928	395,289	84.3	500,703	14,604	12,127	83.0
H21	16,588	443,860	380,681	85.8	498,160	14,048	11,660	83.0
H22	17,403	417,192	356,027	85.3	495,535	13,365	11,129	83.3
H23	16,009	425,459	367,389	86.4	490,271	13,513	11,298	83.6
H24	15,586	462,478	355,947	77.0	488,448	13,799	11,561	83.8
H25	16,606	419,865	359,926	85.7	480,510	13,544	11,446	84.5
H26	15,105	407,659	353,465	86.7	476,990	13,757	11,665	84.8
H27	15,112	413,782	360,985	87.2	473,811	13,648	11,601	85.0
H28	16,121	404,667	355,258	87.8	470,765	13,174	11,199	85.0
H29	15,405	405,086	352,598	87.0	468,706	13,344	11,419	85.6
H30	15,294	391,439	343,216	87.7	463,332	13,030	11,190	85.9
R元	15,726	401,190	354,170	88.3	457,151	13,388	11,556	86.3
R 2	15,098	392,918	346,070	88.1	448,717	13,045	11,258	86.3
R 3	14,943	394,255	348,280	88.3	443,192	12,876	11,104	86.2
R 3 / H23	93%	93%	95%	—	90%	95%	98%	—
R 3 / H28	93%	97%	98%	—	94%	98%	99%	—
R 3 / R 2	99%	100%	101%	—	99%	99%	99%	—

注：野菜生産出荷統計の調査品目の積上げ

資料：野菜生産出荷統計
(令和4年12月)

野菜産出額及び農業産出額の推移

(単位：億円、%)

区 分	野 菜 産 出 額					農 業 産 出 額		
	青森県 (億円)	東 北 (億円)	全 国 (億円)	青森県の順位		青森県 (億円)	野菜の占 める割合 (%)	全 国 (億円)
				東 北	全 国			
S50	295	1,551	14,951	2	19	2,908	10.1	89,751
S55	343	1,429	20,858	3	21	2,345	14.6	102,293
S63	516	2,409	23,981	2	16	2,723	18.9	104,636
H元	530	2,522	24,665	2	16	3,173	16.7	109,583
H 2	620	2,811	27,168	2	16	3,270	19.0	112,786
H 3	622	2,897	28,495	2	17	3,004	20.7	111,865
H 4	580	2,681	25,969	2	16	3,500	16.6	111,385
H 5	637	2,848	27,774	2	16	2,552	25.0	104,069
H 6	705	2,877	27,514	1	14	3,575	19.7	112,691
H 7	646	2,672	26,481	1	15	3,193	20.2	105,846
H 8	647	2,587	25,642	1	14	3,131	20.7	104,468
H 9	630	2,620	25,378	1	15	2,849	22.1	98,316
H10	667	2,708	27,419	1	15	2,801	23.8	98,680
H11	666	2,594	24,991	1	14	2,776	24.0	94,718
H12	630	2,426	23,486	1	14	2,648	23.8	92,574
H13	598	2,375	22,861	1	14	2,575	23.2	89,734
H14	625	2,427	23,864	1	13	2,570	24.3	89,261
H15	626	2,337	23,370	1	14	2,402	26.1	89,011
H16	716	2,490	23,421	1	10	2,953	24.2	89,130
H17	611	2,227	22,337	1	14	2,797	21.8	88,058
H18	675	2,378	22,565	1	12	2,885	23.3	86,321
H19	697	2,450	22,879	1	12	2,858	24.3	84,449
H20	639	2,349	23,188	1	14	2,828	22.6	86,509
H21	585	2,299	22,965	1	14	2,664	22.0	83,136
H22	661	2,401	24,585	1	13	2,757	24.0	82,551
H23	631	2,179	23,405	1	14	2,804	22.5	83,455
H24	588	2,133	23,746	1	13	2,759	21.3	86,106
H25	641	2,275	24,529	1	13	2,835	22.6	85,742
H26	683	2,260	24,499	1	13	2,879	23.7	84,279
H27	773	2,490	26,200	1	13	3,068	25.2	88,631
H28	887	2,686	27,958	1	10	3,221	27.5	93,051
H29	794	2,504	26,703	1	12	3,103	25.6	93,787
H30	851	2,722	25,188	1	9	3,222	26.4	91,283
R元	657	2,394	23,522	1	14	3,138	20.9	89,387
R 2	848	2,714	24,911	1	10	3,262	26.0	89,557
R 3	770	2,498	23,830	1	9	3,277	23.5	88,600
R 3 / H23	122.0	114.6	101.8	—	—	116.9	—	106.2
R 3 / H28	86.8	93.0	85.2	—	—	101.7	—	95.2
R 3 / R 2	90.8	92.0	95.7	—	—	100.5	—	98.9

注：野菜産出額は野菜+いも類の合計値

資料：生産農業所得統計
(令和4年12月)

東京都中央卸売市場における青森県産の入荷量とシェア (R3)

(単位：t・%)

品目	入荷量 (t)	月別シェア (%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	50,045	3	1	1	1	1	2	5	8	6	7	6	3	1
だいごん	18,600	17	1	1	1	0	11	56	38	34	44	39	7	1
ながいも	7,531	72	67	73	71	74	73	75	70	71	72	80	78	66
にんじん	5,881	7	0	0	1	2	0	5	61	5	0	7	9	0
ねぎ	3,716	8	0	0	0	-	-	0	4	18	25	21	14	2
ごぼう	3,594	54	51	44	51	41	37	9	2	7	50	75	84	77
トマト	3,384	4	-	-	0	-	0	1	14	14	10	6	2	0
かぶ	1,439	10	1	0	-	0	7	21	39	33	34	17	6	3
ミニトマト	1,369	5	-	0	-	-	0	1	15	21	14	10	3	0
メロン	1,101	6	-	-	-	-	0	0	7	34	14	0	-	-
にんにく	1,024	43	54	51	43	38	26	31	36	47	44	45	52	54
すいか	960	2	-	-	-	-	-	0	2	9	10	-	-	-
きゅうり	851	1	0	0	0	0	0	0	3	4	3	1	0	0
ピーマン	640	2	-	0	0	0	-	0	5	9	8	4	0	-
キャベツ	401	0	0	-	-	-	-	0	1	0	0	0	0	-
ブロッコリー	357	1	-	-	-	-	-	9	3	0	1	2	0	0
ばれいしょ	322	0	0	0	0	-	-	-	2	3	0	0	0	0
かぼちゃ	177	1	-	-	-	-	-	-	1	5	1	0	0	0
いんげん	103	4	-	-	-	-	-	1	9	10	21	8	0	-
とうもろこし	78	1	-	-	-	-	-	-	0	1	3	-	-	-
えだまめ	60	1	-	-	-	-	-	-	1	2	2	1	0	-
さやえんどう	44	3	-	-	-	0	2	26	25	-	5	7	1	-
いちご	31	0	-	-	0	0	0	3	15	10	10	10	0	-
はくさい	22	0	-	-	-	-	-	0	0	-	0	0	0	-
ほうれんそう	19	0	0	0	-	-	0	0	1	0	0	0	0	-
アスパラガス	15	0	-	-	-	0	2	1	0	-	-	-	-	-
す	0	0	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-

注：野菜合計は当該市場の野菜入荷量の合計であり、果実的野菜（メロン、すいか等）を含まない
「-」は入荷の事実のないものを示す

大阪市中央卸売市場（本場）における青森県産の入荷量とシェア (R3)

(単位：t・%)

品目	入荷量 (t)	月別シェア (%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	9,039	2	1	1	1	1	2	3	5	3	3	3	3	2
だいごん	1,767	7	-	-	-	-	12	41	6	3	9	12	9	1
ごぼう	1,646	31	35	27	24	29	34	2	0	10	34	37	50	47
ながいも	1,408	20	19	27	25	23	23	15	17	19	22	25	18	15
にんじん	1,238	5	-	-	-	-	-	5	51	1	-	4	5	-
ピーマン	754	14	-	-	-	-	-	1	25	36	39	28	2	-
ばれいしょ	713	3	-	-	-	-	-	-	15	18	3	0	0	-
トマト	438	2	-	-	-	-	-	0	4	3	3	4	4	0
にんにく	406	74	74	76	75	72	69	70	55	73	81	78	79	83
メロン	346	5	-	-	-	-	-	-	11	17	4	-	-	-
かぶ	244	25	-	-	-	-	32	79	100	100	94	73	-	0
ねぎ	184	3	1	-	-	-	-	-	-	1	4	7	7	5
やまのいも	98	40	54	5	28	13	13	19	16	25	30	36	53	21
すいか	89	1	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
そらまめ	36	12	-	-	-	-	-	71	91	-	-	-	-	-
きゅうり	34	0	-	-	-	-	-	-	0	1	1	0	-	-
とうもろこし	23	1	-	-	-	-	-	-	-	3	4	-	-	-
かぼちゃ	11	0	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ピース(グリーンピース)	9	4	-	-	-	-	0	39	34	-	-	-	-	-
えんどう	8	1	-	-	-	-	1	47	20	-	10	12	1	-
えだまめ	6	1	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2	-	-
いんげん	5	1	-	-	-	-	-	-	4	9	13	-	-	-
アスパラガス	2	0	-	-	-	-	2	0	-	-	-	-	-	-
うど	0	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：野菜合計は当該市場の野菜入荷量の合計であり、果実的野菜（メロン、すいか等）を含まない
「-」は入荷の事実のないものを示す

名古屋市中央卸売市場における青森県産の入荷量とシェア (R3)

(単位：t・%)

品目	入荷量 (t)	月別シェア (%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	14,413	3	1	1	2	2	2	5	8	4	5	5	3	2
だいこん	5,096	23	-	-	-	-	7	64	54	44	55	47	8	0
ながいも	4,821	61	65	59	62	65	65	64	60	55	64	59	56	56
ごぼう	1,767	51	61	53	61	48	21	11	3	1	49	72	82	79
にんじん	1,662	6	-	0	-	0	-	12	63	0	-	4	5	-
すいか	250	3	-	-	-	-	-	-	1	13	-	-	-	-
メロン計	245	6	-	-	-	-	-	-	16	21	1	-	-	-
にんにく	239	36	41	45	36	41	35	32	29	35	30	32	37	40
メイクイン	225	6	-	-	-	-	-	-	60	30	0	-	-	-
ピーマン	219	3	-	-	-	-	-	-	3	15	14	9	-	-
トマト	72	0	-	0	-	-	-	0	2	1	1	1	0	-
かぼち	70	6	0	-	-	-	3	29	47	63	46	12	1	0
ねづき	54	2	1	0	0	-	-	0	1	0	4	4	3	0
ベテマ	46	1	-	-	-	-	-	0	2	2	2	2	0	-
そらめ	42	14	-	-	-	-	-	90	85	100	-	-	-	-
ばれいしょ	33	0	0	-	-	-	-	-	2	0	0	-	-	-
やまのいも	15	55	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	83	48
かぼち	12	0	-	-	-	-	-	-	-	0	1	0	0	-
うど	10	47	54	54	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ピーナス	8	2	-	-	-	-	3	22	22	-	-	-	-	-
白ねぎ	6	0	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	-
きぬさやえんどう	5	2	-	-	-	-	1	45	14	-	12	5	-	-
キャベツ	5	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-
たらの芽	1	27	43	30	22	19	-	-	-	-	-	-	-	-
きゅうり	1	0	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-
みづ	1	0	-	0	0	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ブロッコリー	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-
いんげん	0	0	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-
チンゲンサイ	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
おぼろ	0	0	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-
さやえんどう	0	0	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-

注：野菜合計は当該市場の野菜入荷量の合計であり、果実の野菜（メロン、すいか等）を含まない
「-」は入荷の事実のないものを示す

県内卸売市場における青森県産の入荷量とシェア (R3)

(単位：t・%)

品目	入荷量 (t)	月別シェア (%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	118,579	58	29	27	28	30	38	62	77	71	76	68	73	49
だいこん	32,925	75	0	1	2	1	84	96	93	91	90	60	81	7
ごぼう	26,498	96	95	97	96	97	84	47	34	86	99	99	97	94
ながいも	16,323	95	96	97	97	94	96	94	95	97	98	94	92	92
にんじん	11,739	71	15	22	43	30	9	46	99	81	64	83	97	36
キャベツ	7,677	41	3	1	-	0	4	66	72	61	65	73	67	3
メロン	4,361	85	-	-	-	-	0	9	98	99	97	21	-	-
すいか	3,796	78	-	-	-	-	-	3	90	98	99	100	-	-
にんにく	3,777	91	94	94	92	83	69	71	87	92	93	92	90	95
ねづき	3,052	62	15	13	8	15	29	19	53	91	95	94	91	62
トマト	2,367	41	1	-	-	0	7	39	92	95	85	79	61	9
きゅうり	1,646	30	0	-	-	1	12	31	69	72	66	43	17	1
はくさい	1,581	30	1	0	1	-	16	64	68	62	60	76	59	6
ばれいしょ	1,406	23	1	0	10	-	1	0	44	63	52	24	3	3
ほうれんそう	783	39	40	25	42	35	32	49	52	63	63	53	30	28
ピーマン	780	41	-	-	-	-	-	12	67	82	81	62	19	-
レタス	649	18	1	1	1	4	22	45	64	55	31	14	7	2
いちご	511	41	17	18	26	42	63	86	84	72	79	75	43	25
たまねぎ	268	2	-	-	-	-	-	2	11	7	3	1	1	0
なす	174	14	-	-	-	-	-	1	22	48	48	28	-	-
さといも	4	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	13	-
かんしょ	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-
その他	6,928	28	6	7	7	8	19	39	49	50	49	39	35	10

注：県内卸売市場（青森市、弘前市、八戸市、五所川原市、十和田市、南部町、むつ市）7市場における割合であり、果実の野菜（メロン、すいか等）は合計に含まない
「-」は入荷の事実のないものを示す

安全・安心なおいしい野菜づくりは 「日本一健康な土づくり運動」

青森県では、県内の全ての生産者が「健康な土づくり」に取り組むことを目指す「日本一健康な土づくり運動」を展開しています。

①土壌診断の実施

- 土の健康診断である「土壌診断」を実施し、適正施肥を推進
- J Aグループを中心とした効率的な土壌診断体制を整備

青森県の土壌診断体制図



J A全農あおもりが
県内全域をカバー！

J Aや市町でも独自
に土壌診断を実施
(2 J A、2市)

県は診断や生産指導
をバックアップ



J A全農あおもり
土壌分析センター



土づくり指導者の養成



生産者への土づくり啓発

「健康な土」が決め手！ 」 展開中！



②土づくりの実践

- 土づくりの基本である堆肥など有機質資源を活用した土づくり
- 高度な土づくりを実践する「あおり土づくりの匠」の認定
- 化学肥料の低減など「環境にやさしい農業」の取組拡大



稲わらのすき込みやたい肥散布など有機質資源の有効利用



「あおり土づくりの匠」の認定



土づくりを基本とした「環境にやさしい農業」の技術を学ぶ研修会

③栽培管理、収穫

- ほ場での栽培管理～収穫作業<例：ながいも>



植付



栽培管理



収穫

「健康な土」で丈夫に育った、安全・安心で品質の良い農産物が消費者に提供されます。





Aomori vegetables Calender in Season

旬のカレンダー



品目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1 ながいも	[Orange bar]											
2 にんにく	[Orange bar]											
3 だいこん						[Orange bar]						
4 にんじん		[Orange bar: 雪下にんじん]				[Orange bar]					[Orange bar]	
5 アスパラガス		[Orange bar: 促成栽培]			[Orange bar]							
6 こかぶ					[Orange bar]							
7 トマト						[Orange bar]						
8 ばれいしょ						[Orange bar]						
9 とうもろこし						[Orange bar]						
10 えだまめ						[Orange bar]						
11 ごぼう	[Orange bar]								[Orange bar]			
12 ねぎ						[Orange bar]						
13 キャベツ						[Orange bar]						
14 きゅうり						[Orange bar]						
15 レタス						[Orange bar]						
16 ピーマン						[Orange bar]						
17 かぼちゃ						[Orange bar]						
18 ほうれんそう		[Orange bar: 寒締め]			[Orange bar]							[Orange bar: 寒締め]
19 食用ぎく										[Orange bar]		
20 メロン							[Orange bar]					
21 すいか							[Orange bar]					
22 いちご	[Orange bar]											

発行：青森県農林水産部農産園芸課
TEL：017-734-9481
E-mail：noen@pref.aomori.lg.jp



この印刷物は、2,000部作成し、印刷経費は1部当たり94.6円です。